越谷市消防本部
Koshigaya City Fire Department
50周年記念誌

50th ANNIVERSARY

越谷市消防本部
50周年記念誌

越谷市消防本部
50周年記念誌

INDEX

ごあいさつ　越谷市長　板川文夫
記念誌発刊によせて　越谷市議会議長　野口佳司
常備消防発足50周年を迎えて　越谷市消防長　大野　實
越谷市消防５０周年記念にあたり　越谷市消防団長　深野　弘

第１章　越谷市消防本部50年のあゆみ

越谷消防の始まり …… 2
1959［昭和34年］～ …… 3

第２章　災害に強いまちづくり

警防編 …… 46
救急編 …… 50
救助編 …… 58
予防編 …… 64
通信指令編 …… 68
消防団編 …… 72

第３章　消防施設・消防車両

消防庁舎編 …… 76
消防車両編 …… 80

第４章　データから見た消防

人口の推移 …… 86
年別火災件数の推移 …… 86
年別救急件数の推移 …… 87
年別救助件数の推移 …… 87
消防職員数の推移 …… 88
消防団員数の推移 …… 88
消防機構図 …… 89
消防署所配置図 …… 90
歴代消防長 …… 91
歴代消防団長 …… 91
消防協力関係団体
　越谷市防火安全協会　歴代会長 …… 91
　越谷市婦人防火クラブ連絡協議会　歴代会長 …… 91
　越谷市幼年消防クラブ連絡協議会　歴代会長 …… 91
過去の災害のあらまし …… 92
越谷市の概要 …… 95

ごあいさつ

越谷市長 **板川　文夫**

このたび、越谷市消防本部・消防署が開設50周年という大きな節目の年を迎えました。これまで越谷市の消防行政の発展のためにご尽力を賜りました関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

越谷市消防本部・消防署は、昭和34年10月に消防車１台、職員13名をもって発足しました。以来、半世紀を経て１消防本部・１署５分署、職員298名を有する県内でも有数な規模・組織力を誇る消防本部に発展してまいりました。

また、「自らの地域は自ら守る」という理念のもと組織された越谷市消防団も、現在11分団42部、団員数413名を有する団体として、地域の防火・防災活動に多大なご活躍をいただいております。

しかし、近年の社会情勢や気候の変化等により、火災や事故、自然災害の様相は複雑多岐にわたっており、これらの災害から、市民の生命、身体及び財産を守るためには、防災力の一層の向上が不可欠であります。

こうした中、本市では、複雑化・多様化する各種災害や増加する救急需要から市民生活の安全・安心を確保するため、危機管理対策の推進や消防力の一層の強化等に鋭意努めているところです。

今後とも、本市は、越谷市総合振興計画に基づき、越谷市消防本部・消防署、越谷市消防団のさらなる強化・充実に努めるとともに、市民の皆様との協働により、誰もが安全で安心して暮らすことのできるまちづくりに全力を傾注してまいります。

このたび、先人の築きあげてきたこれまでの歩みを中心に記念誌を発行いたしました。この開設50周年を契機として、市民の皆様が、ふるさと越谷の防災に対する理解を一層深めていただきますことを、ご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

記念誌発刊によせて

越谷市議会議長 **野口 佳司**

このたび、越谷市消防本部・消防署発足50周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

越谷市の消防行政は、消防本部の下に消防署と５ヵ所の分署、並びに市内各地域に設置されている消防団によって構成されており、32万市民の生命、身体及び財産を火災や地震等の災害から保護するとともに、これらの災害による被害を最小限にとどめるため、職員と団員の方々が日夜任務に精励されております。また、越谷市防火安全協会をはじめ、幼年消防クラブや婦人防火クラブなどの皆様方が、日頃から火災予防活動等に熱心に取り組まれておられますことに感謝を申し上げます。このことは、市民生活に大きな安心感をもたらしています。

顧みますと、昭和34年10月に消防本部・消防署が発足して今年で半世紀になりますが、この間、消防署所の整備や消防車両等の更新、資器材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防としての体制が著しく整備されてきました。発足以来熱意をもって消防活動にご尽力されてこられた方々に対し、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

近年、社会情勢の変化に伴い、火災や事故等の災害事象は複雑多様化しており、さらに大規模地震等の自然災害への対応など、消防機関の果たす役割は、ますます重要になっております。どうか、50年にわたる歳月の中で培ってきた経験と技術力を発揮していただき、引き続き市民の安全・安心の確保に取り組まれることを切望いたします。

結びにあたり、50周年を契機に、越谷市消防本部がさらなる発展を遂げられますよう祈念いたしまして、発刊によせる言葉といたします。

常備消防発足50周年を迎えて

越谷市消防長 大野 實

このたび、越谷市の消防本部・消防署が開設されて50周年の節目を迎えました。この間、市当局はじめ市議会、消防関係皆さまの深いご理解とご協力により、32万市民の防火防災の要となる常備消防にと充実発展してまいりました。多くの関係皆さまのご苦労やご努力に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

「消防の一切の責任は市町村長にある」として自治体消防制度が発足し、越谷市の消防本部・消防署は、市制施行後の翌年昭和34年10月１日に、職員13名、速消車１台をもってスタートいたしました。今では人口32万人を超え、１署５分署、消防職員298名、消防団１本部11分団42部で団員413名、消防ポンプ自動車、化学車、はしご車、高規格救急自動車などの車両が87台（消防署48台・消防団39台）、消火栓や防火水槽など消防水利6,100箇所などの現有勢力をもって、市民の生命・身体及び財産を火災や地震などの自然災害から保護する責務を担って日々活動しております。もちろん、常日頃より地域の防火・防災にご尽力いただいている越谷市消防団、消防音楽隊の誕生をはじめ予防広報にご支援いただいている越谷市防火安全協会、地域での地密な活動をされている婦人防火クラブ、幼年消防クラブの皆様など、市民の多くのご支援・ご協力をいただきながら、安全・安心なまちづくりが着実に進展してまいりました。発足時からの消防力を振り返ると隔世の感がいたしますが、今日の消防を取り巻く環境は、多種多様、複雑・高度化へと変化して、幅広い役割が期待されております。私どもも、この50年を礎に、新たな決意とさらにの努力をしながら、市民の安全・安心の確保に全力を傾注してまいりますことをお誓い申し上げたいと存じます。

なお、今回発行の記念誌は、50年の消防の変遷が一目で解るようにと、職員皆で考え発刊させていただきました。今後の越谷市消防に対するご理解にお役に立てれば幸いです。

越谷市消防50周年記念にあたり

越谷市消防団長 **深野　弘**

50周年の節目にあたり、先人の消防関係皆様方に心より敬意と感謝を申し上げます。

昭和34年に越谷市消防本部・消防署が発足以来、消防団活動も市の組織として50年が経過しました。本署を中心に５ヵ所の分署が設けられ、火災、救急そして災害においての救助、救命等の防災体制も整えられてきました。現在、全国約89万人の消防団員、その内17,800名が女性団員、埼玉県では14,200名、内女性団員337名、そして越谷市は413名、内女性団員21名がいます。消防署がない時代には全国で200万人の団員がいたそうです。今、全国で2,336の消防団があり、各地域によって団活動は大きく異なりますが、その内の70％はまだまだ火災時の消火活動が重要視される団であると言われ、残りの30％は越谷市もその中に入りますが、よほどの大火災以外は後方支援の活動を行っています。即ち、大都市や人口の多い市においては、消防署が確立していて、常に緊急出動の体制が整っているからです。

それでは、我々消防団は何をすべきか、現状を見つめますと、これからは伝統ある団活動を継承しながら、火災はもちろん、大災害に向けての訓練を行い、地域の人々に火災防止や大規模災害時における情報収集、広報活動等を行い、火災や防災に対する意識の高揚を図っていき、一人暮らしの人や寝たきりの方を越谷市消防団11分団の中で、各自治会の方々と話し合い、把握し、火災や災害時に、いち早く避難誘導し、安全な救助態勢が取れるようにしたいと思っております。

現在、我が女性団員は平成17年に入団してから５年目になりますが、防火予防の活動や消防音楽隊に参加し、各所にて演奏会を通して防災に対しての広報活動を行っています。また、救命講習会、応急手当、AED の使用方法等を地域に出向いて指導するなど消防団として地域に密着した活動を行っております。特に今年は、10月22日に横浜市の日本消防協会中央消防訓練場で開催された「第19回全国女性消防操法大会」に埼玉県代表として出場し、全国第４位「優秀賞」を獲得しました。

越谷市消防団は、与えられた資器材を有効に活用し、団員としての規律と技を磨き、今何が必要か、何を行うべきかをしっかりと見極め、将来に向けて誠心誠意努力をし、地域の防災リーダーとしての役務を果たす覚悟であります。

皆様方には、今後ともより一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

第 1 章

越谷市消防本部50年のあゆみ

越谷消防の始まり

今から135年前の明治７年（1874）、当時の越ヶ谷町では396戸が焼失する大火がありました。被害にあった戸数は町の約54パーセントに当たるものでした。この火災は隣接する瓦曽根村にも被害が及び80戸が焼失しました。しかし、明治初期には､｢消防は自警的なもの｣の風習が強く、これといった消防組織もなく人々は手桶などで消火に努めるという程度でした。

明治19年（1886）12月、埼玉県は「消防組編成規則」を定めて１町村１組合の消防組織編成を奨励しました。この規則により、越ヶ谷・桜井・蒲生・出羽・増林・荻島・新方･川柳の各地区に近代消防組織が誕生しました。これが、“越谷の消防”の始まりです。

また、明治27年（1894）には政府から「消防組規則」が公布されました。この規則の目的は、消防行政の全国統一化と私設消防の廃止にありました。これにより町村条令によって設置されていた消防組は公設消防組に切り替えられました。また、消防組の指揮監督は県知事にありましたが、実際には警察署長が任務にあたっていました。

昭和14年（1939）、戦時体制強化の一環として、消防組は防護団と合流し警防団と名称を改め、防空の業務も負うことになりました。

しかし、戦後、新憲法の制定に伴い「消防組織法」が制定され、消防組織を警察から分離し、地方自治体の管理下に置くことになりました。警防団は消防団に名称を改め、消防業務のすべては市町村に移譲され、災害時における消防活動、報告など市町村の責任となりました。

昭和29年（1954）11月、越ヶ谷町をはじめ２町８ヵ村が合併して越谷町が誕生し、消防組織も越谷町に移管され、消防本部ほか旧町村単位による10分団に編成されました。昭和31年（1956）には川柳分団が加わり11分団に再編成されました。消防備品は、自動車ポンプ３台、三輪車ポンプ７台、その他手動ポンプ等でした。

昭和33年（1958）11月、越谷町は市制を施行して越谷市になり、翌34年（1959）10月、大沢に常備の消防本部・消防署を開設しました。13人の専任消防職員が配置され、消防組織法に基づく近代的な消防組織のあゆみを始めました。

越谷市消防本部・消防署を開設

越谷市消防本部・消防署は、昭和34年10月１日、大沢1,944番地に開設、職員13人、消防ポンプ自動車１台をもって発足しました。人口48,800人

開署時配置された水槽付消防ポンプ自動車

放水訓練（宮前橋）

木造平屋建ての初代消防庁舎

市長による点検

HISTORY

1959［昭和34年］

９月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数18人となる。

10月　消防団条例が改正され、団員定数500人となる。
越谷市消防本部・消防署を開設する。初代消防長は、大塚伴鹿市長が兼務し、職員13人、水槽付消防ポンプ自動車１台をもって発足する。
消防無線基地局、移動局、それぞれ１局を新設する。
大沢分団第１部を準常備部とし、団員11人、四輪ポンプ自動車１台をもって発足し、常備消防力の一翼を担う。

社会の動き・災害等

1959［昭和34年］

４月　皇太子ご成婚

９月　伊勢湾台風

消防無線運用と救急業務の開始

運用開始時の初代救急車

消防自動車の車載無線機

消防署内に設置された消防無線基地局

小学校のプールを使用した放水訓練

HISTORY

1960［昭和35年］

4月　初代消防署長に大貫亥蔵氏が任命される。
越ヶ谷分団に消防無線移動局が増設される。

10月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数22人となる。

11月　消防団長に降田清一郎氏が任命される。

1961［昭和36年］

6月　準常備部を解散し、四輪ポンプ自動車が消防署に移管される。

1962［昭和37年］

3月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数26人となる。

4月　救急業務に関する規則の制定により、救急業務を開始する。

社会の動き・災害等

1960［昭和35年］

5月　チリ地震津波

9月　カラーテレビ放送開始

1961［昭和36年］

5月　三陸大火、八戸市大火

9月　第2室戸台風

1962［昭和37年］

4月　宮城県北部地震

6月　十勝岳爆発

9月　長崎県福江市大火

望楼監視の時代

消防特別点検（消防団員）

望楼監視勤務

望楼から北方向（現在の県道足立越谷線）

望楼から西方向（現在の北越谷地区）

HISTORY

1963［昭和38年］

12月　越谷市消防賞じゅつ金制度が制定施行される。

1964［昭和39年］

５月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数32人となる。

社会の動き・災害等

1963［昭和38年］

１月　38年豪雪

11月　鶴見電車事故

1964［昭和39年］

６月　新潟地震

７月　東京都勝島倉庫火災

10月　東海道新幹線開通

東京オリンピック開催

念願の消防本庁舎を新築
鉄筋コンクリート3階建（望楼付庁舎）

２階からの出動は、すべり棒で降下した

119番通報を受信中の通信員

HISTORY

1965［昭和40年］

３月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数40人となる。

11月　増林分団の三輪ポンプ自動車老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。

1967［昭和42年］

８月　消防本庁舎新築、鉄筋コンクリート３階建てとなる。

11月　消防署に四輪ポンプ自動車を配置する。

12月　消防長に大貫亥蔵氏が任命される。

手回しサイレン付消防ポンプ自動車

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」①

職員が車両を整備点検することが主流であった

COLUMN●全国火災予防運動

火災予防に関する意識を高めることにより、火災の発生を防止し、尊い生命と貴重な財産の損失を防ぐことを目的とする運動。毎年３月１日から３月７日は「春の火災予防運動」、11月９日から11月15日は「秋の火災予防運動」として実施しています。

社会の動き・災害等

1965［昭和40年］

１月　東京都大島町大火
10月　西宮市 LPG タンクローリー火災

1966［昭和41年］

１月　川崎市雑居ビル火災
三沢市大火
２月　全日空機東京湾墜落事故
３月　カナダ航空機羽田空港炎上事故
３月　英国海外航空機富士山腹遭難事故
水上温泉菊富士ホテル火災
11月　全日空機松山沖墜落事故

昭和41年度標語

「火の始末　人にたのむな　任せるな」

本庁舎西側の風景（昭和41年）

本庁舎西側の風景（平成21年）

昭和42年度標語

「さあねよう　アッそのまえに　火の点けん」

社会の動き・災害等

1967［昭和42年］

３月　鈴鹿トンネル内車両火災
８月　新宿駅油槽列車火災

本庁舎南側の風景（昭和42年）

本庁舎南側の風景（平成21年）

県下初の女性消防士誕生

県下で初めて採用された女性消防士

初のダブルキャブ型消防ポンプ自動車を購入

消防訓練（越谷市役所）

HISTORY

1968［昭和43年］

３月　荻島分団の三輪ポンプ自動車を老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数43人となる。
消防署に消防広報、連絡、災害現場指揮等に使用するため、指令車を配置する。

11月　消防長職務代理者に消防署長永野悦郎氏が任命される。

12月　救急車を購入し、２台となる。
消防団装備は、四輪ポンプ自動車６台、三輪ポンプ自動車２台、可搬ポンプ42台となる。

1969［昭和44年］

１月　越谷市機構改革に伴い、消防本部に２課（管理、予防）３係（管理、予防、警防）を新設する。

３月　大袋分団の三輪ポンプ自動車が老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数70人、その他職員５人の計75人となる。県下初の女性消防士５人を採用する。

1970［昭和45年］

２月　日本消防協会から優良消防団として表彰される。

７月　消防需要の増加により、分署及び職員待機宿舎建設に着工する。

９月　小型動力ポンプ５台、荻島、出羽、蒲生、増林、大沢の各分団に配置する。

10月　消防団長に中野喜平治氏が任命される。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」②

昭和43年度標語　「あなたは　火事の恐ろしさを　しらない」

消防署に配備された指令車

社会の動き・災害等

1968［昭和43年］

2月　えびの地震
4月　小笠原諸島返還・日米協定調印
（6月26日東京都に編入）
霞ヶ関ビル完成
5月　1968年十勝沖地震
8月　飛騨川バス転落事故
11月　有馬温泉池之坊満月城火災
12月　3億円強奪事件

昭和44年度標語　「今捨てた　タバコの温度が　700度」

越ヶ谷分団消防ポンプ自動車

社会の動き・災害等

1969［昭和44年］

2月　磐梯熱海温泉磐光ホテル火災
5月　東名高速道路全面開通
加賀市大火
7月　アポロ11号月面着陸

昭和45年度標語　「あぶない！　消し忘れ　切り忘れ」

火災現場

社会の動き・災害等

1970［昭和45年］

3月　日本万国博覧会開催
4月　大阪市地下鉄工事現場ガス爆発火災
6月　両毛病院火災
8月　東京・銀座等で歩行者天国始まる

谷中分署、蒲生分署の開署 消防需要増加に対応

国道４号線沿いに完成した谷中分署（テレビ監視タワー付庁舎）

望楼監視からテレビカメラによる監視に切り替わる

2段ベットを使用していた仮眠室（谷中分署）

消防訓練（病院）

県道足立越谷線沿いに完成した蒲生分署

HISTORY

1971［昭和46年］

１月　大相模分団の三輪ポンプ自動車が老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。

２月　谷中分署を開署する。配置人員24人。テレビカメラによる監視を行う。
谷中分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車(15m級)を配置する。
消防署に化学消防ポンプ自動車を配置する。

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数85人となる。
消防長に永野悦郎氏が任命される。

５月　消防署に査察指令車を配置する。

11月　桜井分団、川柳分団に四輪ポンプ自動車を配置する。

1972［昭和47年］

１月　新方分団に四輪ポンプ自動車を配置する。

３月　越谷市長島村平市郎氏が消防長事務取扱者となる。

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数115人となる。

1973［昭和48年］

３月　蒲生分署を開署する。配置人員23人。テレビカメラによる監視を行う。

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数139人となる。
消防本部の機構改革により、管理課２係、予防課４係となる。

６月　消防署に広報車を配置する。蒲生分署に隊員輸送車を配置する。

７月　谷中分署に機材輸送車を配置する。

９月　蒲生分署に消防ポンプ自動車を配置する。

昭和46年度標語

「いま燃えようとしている　火がある」

庁舎前の大交代（消防署）

社会の動き・災害等

1971［昭和46年］
6月　沖縄返還協定調印
7月　環境庁発足
　　雫石事故
8月　ドルショック、通貨危機

昭和47年度標語

「慣れた火に　新たな注意」

社会の動き・災害等

1972［昭和47年］
2月　札幌冬季オリンピック開催
3月　山陽新幹線新大阪ー岡山間開通
5月　大阪・千日デパートビル火災
　　沖縄の施政権返還、沖縄県誕生
9月　日中国交正常化
　　パンダブーム

消防訓練（スーパーマーケット）

昭和48年度標語

「隣にも　声をかけあって　よい防火」

社会の動き・災害等

1973［昭和48年］
2月　円の変動相場制移行
3月　福岡県済生会八幡病院火災
7月　出光石油化学徳山工場火災
10月　第1次石油危機
11月　熊本市大洋デパート火災

昭和40年代の防火装備

中高層火災に対応 近隣消防との連携（4市1組合）

消防訓練（スーパーマーケット）

４市１組合（越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川松伏消防組合）合同消防訓練（越谷市役所）

水難事故に備えて救命ボート訓練

はしご車からの放水訓練（越谷駅前）

HISTORY

1974［昭和49年］

１月　消防長に島村利一氏が任命される。

２月　指令室を新設、Ｂ級指令台により業務を開始する。救急系無線局（復信式）を新設する。
無線局の改修により消防系無線基地局の更新及び移動局２局を増強する。

1975［昭和50年］

４月　消防長に菅家義雄氏が任命される。

1976［昭和51年］

４月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数174人となる。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」④

昭和49年度標語　「生活の　一部にしよう　火の点検」

交代時の車両点検（蒲生分署）

社会の動き・災害等

1974［昭和49年］
5月　1974年伊豆半島沖地震
8月　丸の内三菱重工ビル爆破テロ事件
9月　多摩川堤防決壊
12月　三菱石油水島製油所重油流出事故

昭和50年度標語　「幸せを　明日につなぐ　火の始末」

水難救助訓練（葛西用水）

社会の動き・災害等

1975［昭和50年］
2月　大協石油四日市精油所タンク火災
3月　新幹線、博多駅まで延長開業
7月　沖縄海洋博覧会開催

昭和51年度標語　「火災は人災　防ぐは　あなた！」

市長から点検を受ける消防団員

社会の動き・災害等

1976［昭和51年］
3月　北海道庁爆弾テロ事件
10月　酒田市大火

間久里分署（訓練塔付）の開署

国道4号線沿いに完成した間久里分署

間久里分署で行なわれた東部地区救助技術指導会

HISTORY

1977［昭和52年］

３月　訓練塔付間久里分署を開署する。配置人員25人。テレビカメラによる監視を行う。
　　携帯用無線機３台増強し、携帯無線機12台となる。

５月　消防署望楼監視を廃止し、テレビカメラを新設する。

12月　間久里分署に消防ポンプ自動車１台、救急車１台を配置する。

1978［昭和53年］

２月　消防団長に森山武氏が任命される。

４月　消防署に指令車１台を配置する。

11月　消防署に消防ポンプ自動車１台を配置する。

1979［昭和54年］

４月　消防本部の機構改革により、管理課を総務課とし、消防機構の充実を図る。

５月　指令室に気象観測用風向風速計を設置する。

６月　テレホンサービスシステム（５回線）を導入し、消防情報の提供を開始する。

11月　消防本庁舎２階、３階の一部を増築（９月着工、11月完了）する。

12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数190人となる。

改修前の消防本庁舎

改修後の消防本庁舎

テレビカメラ監視業務を開始した消防署

昭和52年度標語

「使う火を　消すまで離すな　目と心」

社会の動き・災害等

1977［昭和52年］

2月　札幌白石中央病院火災
3月　栃木県那須林野火災
　　北九州市貫山山林火災
5月　岩国病院火災

昭和53年度標語

「それぞれの　持場で生かせ　火の用心」

ベッドが２台になる２Ｂ型救急車

社会の動き・災害等

1978［昭和53年］

1月　1978年伊豆大島近海地震
3月　新潟市雑居ビル火災
5月　成田空港（新東京国際空港）開業
6月　1978年宮城県沖地震
10月　有珠山噴火
12月　第２次石油危機

市指定文化財を守る文化財防火デー訓練

昭和54年度標語

「これくらい　と思う油断を　火が狙う」

社会の動き・災害等

1979［昭和54年］

1月　国立共通１次試験開始
3月　スリーマイル島原発事故
　　上越新幹線大清水トンネル工事火災
6月　東京サミット開催
7月　東名高速日本坂トンネル内車両火災

建物の高層化に対応 35m 級はしご車を配備

越谷市防災訓練（東越谷小学校　昭和57年９月11日）

はしご車を活用した消防訓練

文化財防火デー訓練（大泊　安国寺　昭和55年１月26日）

台風24号による被害（弥栄町地内　昭和56年10月23日）

寄贈された水槽付消防ポンプ自動車

HISTORY

1980［昭和55年］

１月　消防本部に可搬型救急無線局（10W）１台を新設し、業務を開始する。
　　消防無線基地局（５W）県波を新設し業務を開始する。

３月　消防庁長官から消防本部･消防団が竿頭綬を授与される。

12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数207人となる。

1981［昭和56年］

２月　間久里分署に35m級はしご付消防ポンプ自動車１台を配置する。

４月　埼玉県救急医療情報システムの運営が開始される。
　　日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車が寄贈され、消防署に配置する。

12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数229人となる。

1982［昭和57年］

10月　市内事業所から救急車・査察車各１台が寄贈され、消防署に配置する。

12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数252人となる。

昭和55年度標語　「あなたです！　火事を出すのも　防ぐのも」

更新した
消防ポンプ自動車

社会の動き・災害等

1980［昭和55年］
1月　東洋ガラス倉庫火災
7月　モスクワオリンピック開催
8月　静岡駅前ゴールデン街ガス爆発事故
　　新宿駅前バス放火事件
11月　川治プリンスホテル雅苑火災

柏原芳恵さん

昭和56年度標語　「毎日が　防火デーです　ぼくの家」

新しくなった越谷駅

社会の動き・災害等

1981［昭和56年］
3月　神戸ポートアイランド博覧会開催
5月　根室市花咲港船舶火災
10月　北炭夕張新炭鉱ガス突出事故

松田聖子さん

昭和57年度標語　「火の用心　心で用心　目で用心」

消防団特別点検に伴う
ポンプ車操法訓練

社会の動き・災害等

1982［昭和57年］
2月　ホテルニュージャパン火災
　　羽田沖日航機墜落事故
6月　東北新幹線開業
9月　リニアモーターカー
　　有人走行実験成功
11月　上越新幹線開業

松本伊代さん

大相模分署の開署

勤務体制を2部制から3部制へ移行

県道越谷流山線沿いに完成した大相模分署

消防本部通信指令室　指令放送は、職員の肉声で指令していた

救急の日フェスティバル（スーパーマーケット　昭和60年９月５日）

HISTORY

1983［昭和58年］

３月　消防署に救急車１台を配置する。

４月　消防署、谷中分署の勤務体制を３部制に改める。

７月　消防署に隊員輸送車１台を配置する。

12月　大相模分署を開署する。配置人員37人。
当直司令制度を導入し、消防署に担当司令を置き、消防機構の充実を図る。

1984［昭和59年］

６月　大相模分署に資機材搬送車１台を配置する。

10月　蒲生分署、間久里分署、大相模分署の勤務体制を３部制に改める。
財団法人埼玉県消防協会から特別優良消防団として表彰旗が授与される。

12月　大相模分署に水槽付消防ポンプ自動車１台を配置する。

1985［昭和60年］

７月　谷中分署、蒲生分署のテレビカメラ監視業務を廃止する。

12月　間久里分署のテレビカメラ監視業務を廃止する。

昭和58年度標語　「点検は　防火のはじまり　しめくくり」

消防訓練で応急手当を
指導する職員

社会の動き・災害等

1983［昭和58年］
- 2月　蔵王観光ホテル火災
- 4月　東京ディズニーランド開園
- 5月　昭和58年日本海中部地震
- 7月　山陰豪雨
- 9月　大韓航空機撃墜事件
- 10月　三宅島雄三噴火
- 11月　静岡県つま恋プロパンガス爆発事故

石川秀美さん

昭和59年度標語　「“あとで”より“いま”が大切　火の始末」

救急相談コーナーの開設
（越谷市役所）

社会の動き・災害等

1984［昭和59年］
- 3月　グリコ森永事件
- 5月　ＮＨＫ衛星放送開始
- 9月　長野県西部地震
- 11月　世田谷・地下通信ケーブル洞道火災

早見　優さん

昭和60年度標語　怖いのは　「消したつもり」と「消えたはず」

救助隊による
水難救助訓練（葛西用水）

社会の動き・災害等

1985［昭和60年］
- 3月　科学万博つくば'85開催
- 4月　日本電電公社、日本専売公社の民営化
- 5月　目黒区柿の木坂タンクローリー火災
- 8月　日航ジャンボ機御巣鷹山に墜落

本田美奈子さん

テレビカメラ監視業務の全署廃止
—地図検索装置の導入—

指令装置Ⅱ型、指揮台、無線統制台、指令伝送装置、地図検索装置等を導入する

大相模分署に配置された屈折はしご付消防ポンプ自動車

119番の日が制定される

消防署に配置された指令広報車

HISTORY

1986［昭和61年］

1月　大相模分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車1台を配置する。

3月　消防署のテレビカメラ監視業務を廃止する。

7月　日本消防協会から指令広報車1台が寄贈され、消防署に配置する。

10月　越谷市防火安全協会から軽自動車5台が寄贈され、消防署、谷中分署、蒲生分署、間久里分署、大相模分署に配置する。

12月　間久里分署に水槽付消防ポンプ自動車1台を配置する。

1987［昭和62年］

4月　消防長に中野功氏が任命され、消防本部総務課長事務取扱となる。
消防団長に白鳥庄造氏が任命される。

10月　越谷市消防団条例の一部改正、条例定数450人以内となる。

11月　住民の防災意識の高揚を図ることを目的として119番の日が制定される。

1988［昭和63年］

3月　指令装置Ⅱ型、指揮台、無線統制台、指令伝送装置、地図検索装置等を導入する。
救急基地用無線局を10Wの新波に切替え、併せて移動局を配備する。
日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され、谷中分署に配置する。

4月　消防団長に鈴木清康氏が任命される。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑧

昭和61年度標語　「防火の大役　あなたが主役」

夏季特別点検に伴う
消防団操法訓練

社会の動き・災害等

1986［昭和61年］
1月　スペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故
2月　熱川温泉ホテル大東館火災
4月　チェルノブイリ原発事故
7月　東北自動車道開通
11月　伊豆大島三原山噴火

中山美穂さん

昭和62年度標語　「消えたかな！　気になるあの火　もう一度」

救急の日に伴う
応急手当の指導
（越谷市役所）

社会の動き・災害等

1987［昭和62年］
4月　国鉄分割民営化
5月　大井火力発電所タンク爆発火災
6月　特別養護老人ホーム「松寿園」火災
11月　大韓航空機爆弾テロ事件

山瀬まみさん

昭和63年度標語　「その火　その時　すぐ始末！」

救助服の左上腕に付けた
最初の救助隊員章

社会の動き・災害等

1988［昭和63年］
3月　青函トンネル開通
4月　瀬戸大橋開通
5月　ソ連船プリアムーリエ号火災

土家里織さん

越谷市消防本部発足30周年記念誌発刊
各種救助事象に対応
救助工作車を配備

間久里分署に配備された初代救助工作車

救助工作車を配備

越谷市消防署間久里分署

交通事故や災害時の緊急救助に威力を発揮する、救助工作車が、先月から越谷市消防署間久里分署に配備された。

これまで、さまざまな状況に応じ九件出動している。

工作車は、積載量五・五トン、つり上げ能力二・九トンのクレーン、けん引力五トンのウインチ、発電、照明装置を装備。重量物排除用のマット型空気ジャッキ、五トンの力で六十センチのすき間をあける油圧スプレッダー、切断用には圧縮空気で鉄材などを切るエアーカッター、十二トンの力で切断する油圧切断器なども積まれている。

効果を発揮したのは、十月二日の二回目の出動。大沢地区路上で側面衝突された女性ドライバーが脱出できなくなり、油圧スプレッダーでドアをこじあけ、救出した。十四日には駐車中のトラックに追突し、ダッシュボードとブレーキペダルにはさまれた男性ドライバーをウインチ装置、油圧器具を使い救出している。

現在、同工作車専従の十五人が三班編成で二十四時間、事故、災害に備えている。

広報 こしがや

平成2年 1990年 11/1

発行 越谷市
〒343 越谷市越ヶ谷4丁目2番1号
☎0489 (64)2111
編集 企画部広報広聴課

ZOOM UP

人命救助に威力を発揮

待望の救助工作車を配備

交通事故や災害事故などで、救助を要するさに実力を発揮する救助工作車が消防署間久里分署に10月1日初めて配備されました。

この救助工作車は、積載量5・5トン、発電機、照明、クレーン、ウインチを装備しています。また、12・40トンの重量物を持ち上げるマット型空気ジャッキや、5トンの力ですき間を60センチまでひろげることができる油圧スプレッダーなどの重量物排除用機器のほか、破壊用器具、保護用器具などが積まれています。

今までにこの救助工作車が出動したのは3件。救急な人命救助に、大いに力を発揮しています。

台風18号による被害（弥栄町地内　平成３年９月19日から20日）

HISTORY

1989［平成元年］
- ３月　大相模分署に高圧ガス（空気）充填施設を設置する。
- ５月　市内事業所から救急車１台が寄贈され、消防署に配置する。
- 10月　越谷市消防本部発足30周年記念誌を発刊する。

1990［平成２年］
- ３月　消防庁長官から消防本部・消防団に表彰旗が授与される。
- ９月　六都県市合同防災訓練の埼玉会場として越谷総合公園で開催する。
  間久里分署に救助工作車Ⅱ型１台を配置する。

1991［平成３年］
- ４月　谷中分署に消防ポンプ自動車１台を配置する。

六都県市合同防災訓練埼玉会場
（越谷総合公園）

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑨

平成元年度標語

「おとなりに　あげる安心　火の始末」

子どもたちへの職員による火災予防紙芝居

社会の動き・災害等

1989［平成元年］

1月　昭和天皇崩御、皇太子明仁親王即位「平成」と改元
4月　消費税スタート（税率３％）
11月　ベルリンの壁崩壊

松本典子さん

平成２年度標語

「まず消そう　火への鈍感　無関心」

物品販売店舗への立入検査

社会の動き・災害等

1990［平成２年］

３月　スーパー長崎屋尼崎店火災
５月　第一化成工場火災（東京都板橋区）
10月　東西ドイツ統一
11月　即位の礼挙行

杜けあきさん

平成３年度標語

「毎日が　火の元警報　発令中」

５署合同水難救助訓練（葛西用水）

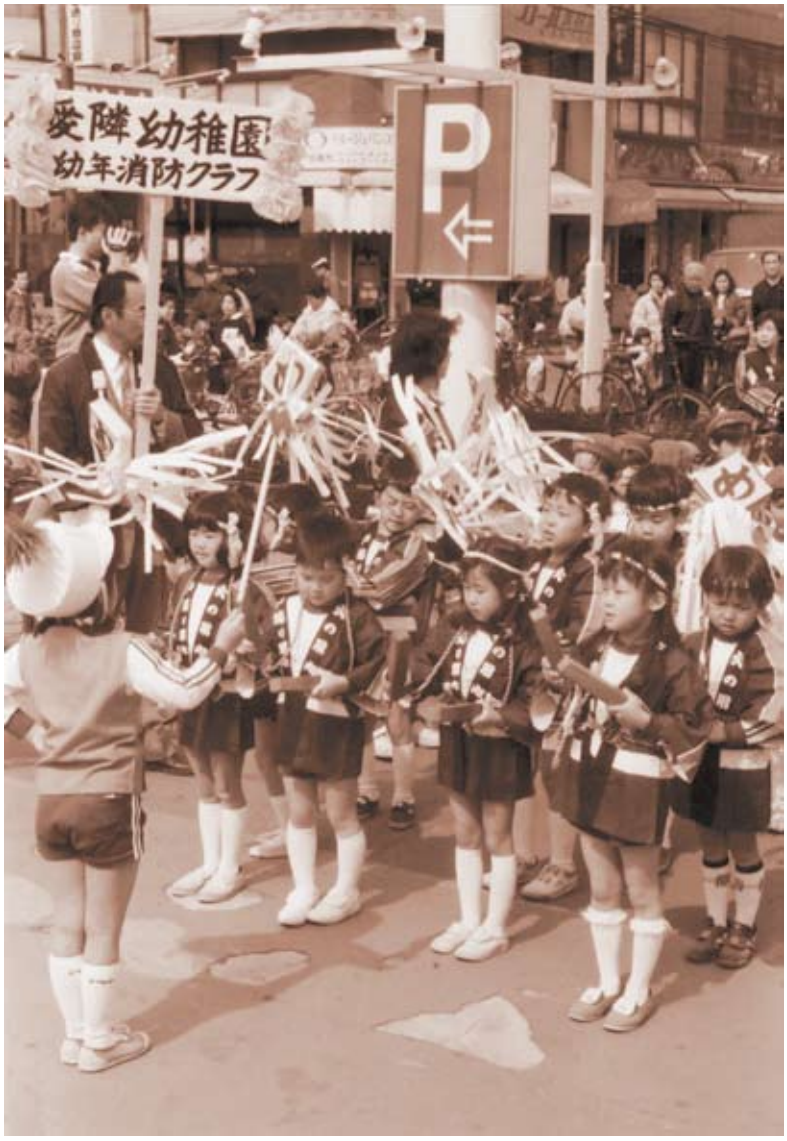
日蔭温子さん

社会の動き・災害等

1991［平成３年］

３月　日立市林野火災
５月　信楽高原鉄道列車衝突事故
　　雲仙普賢岳噴火

消防広報・防災教育の普及拡大



商店街で火災予防を呼びかける幼年消防クラブ

消防音楽隊演奏会（越谷市役所）

幼年消防クラブの結成式

一日消防署長による消防設備の点検
（平成５年11月９日）

HISTORY

1992［平成４年］

２月　間久里分署に訓練塔（簡易型）を設置する。

３月　谷中分署に鉄骨造２階建車庫兼倉庫を新築する。

４月　消防団長に遊馬重誉氏が任命される。越谷市消防音楽隊を結成する。

６月　救急車５台に自動車電話を設置する。

1993［平成５年］

１月　市内事業所から防災指導車１台が寄贈され、消防署に配置する。

４月　財団法人救急振興財団救急救命東京研修所に救急救命士養成のため研修生１人を派遣する。

８月　自治体消防45周年に際し、越谷コミュニティセンターで記念式典を開催する。東京消防庁消防学校に救急救命士養成のため研修生１人を派遣する。

11月　初の救急救命士が誕生する。

12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数255人となる。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑩

平成４年度標語

「点検を　重ねて築く　“火災ゼロ”」

越谷市総合防災訓練　消火訓練

社会の動き・災害等

1992［平成４年］

６月　国連環境開発会議
（リオ・デ・ジャネイロ地球サミット）
茨城県守谷町煙火工場爆発火災
７月　山形新幹線開業
10月　富士石油㈱袖ヶ浦製油所プラント爆発火災

南野陽子さん

平成５年度標語

「防火の輪　つなげて広げて　なくす火事」

旧消防署庁舎東側にあった消防本部庁舎

社会の動き・災害等

1993［平成５年］

４月　天皇、沖縄ご訪問
６月　皇太子徳仁親王殿下ご成婚
７月　北海道南西沖地震

奥山佳恵さん

COLUMN●越谷市消防音楽隊

越谷市消防音楽隊は、音楽を通じて市民の防火、防災思想の普及を目的として、平成４年４月１日に結成しました。消防本部の諸式典や行事はもとより越谷市の行事などに出場し、火災予防や消防情報を広報しています。

救急救命士と高規格救急車の運用開始

救急救命士と高規格救急車の運用を開始する（平成６年）

越谷市総合防災訓練　高所救出訓練
（北越谷小学校　平成７年８月27日）

HISTORY

1994［平成６年］

１月　救命講習会を開始する。
４月　週休２日制が施行される。
７月　高規格救急車の運用を開始する。
10月　マニラ市消防職員２人が化学車操作研修のため来署する。
12月　越谷市定数条例改正により、消防職員定数265人となる。

1995［平成７年］

４月　マニラ市に旧化学車を寄贈する。
６月　完全密閉型化学防護服を配備する。
10月　緊急消防援助隊の発足により、救急部隊１隊及び消火部隊１隊を総務省消防庁に登録する。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑪

平成６年度標語

「安心の　暮らしの中心　火の用心」

ヘリコプター離発着及び備蓄倉庫を備えた埼玉県越谷防災基地（越谷市北後谷４）

社会の動き・災害等

1994［平成６年］
１月　ロサンゼルス・ノースリッジ地震
４月　名古屋空港中華航空機墜落炎上事故
６月　松本サリン事件
９月　関西国際空港開港
12月　若喜旅館本館火災（福島県･飯坂温泉）

葉月里緒菜さん

舞の海さん

平成７年度標語

「災害に　備えて日頃の　火の用心」

一日消防署長による火災予防呼びかけ

社会の動き・災害等

1995［平成７年］
１月　兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）
３月　地下鉄サリン事件
11月　埼玉県吉見町　東洋製罐㈱埼玉工場倉庫火災　死者３人（うち消防職員２人殉職）、負傷６人（消防職員）

鶴田真由さん

地下鉄サリン事件を契機に完全密閉型化学防護服を配備する（平成７年６月21日）

COLUMN●一日消防署長

火災予防運動期間中に広報活動にご協力いただける方を公募し、一日消防署長として駅頭などで火災予防を呼びかけていただきます。

大袋分署開署、北西部地域の消防力を強化

越谷市総合防災訓練（北陽中学校　平成８年８月31日）

仮設庁舎で開署した大袋分署（平成８年４月１日）

大袋分署の配置車両（左から資機材搬送車、高規格救急車、水槽付消防ポンプ車）

HISTORY

1996［平成８年］

４月　阪神・淡路大震災を契機に消防団の機動力を確保するため各分団の合併を計画的に進める。
大袋分署を開署する。配置人員25人。水槽付消防ポンプ車１台、高規格救急車１台、資機材搬送車１台を配置する。
彩の国レスキュー隊（県）の発足により、救急隊１隊、消火隊１隊及び救助隊１隊を登録する。
消防団副団長３人制となる。

５月　市町村共通波１波及び全国共通波２波を増設する。

８月　市内事業所から総務連絡車１台が寄贈され、消防本部に配置する。

９月　群馬県高崎市等広域消防局と消防相互応援協定を締結する。

10月　越谷市防火安全協会から人員輸送、り災者保護用マイクロバス１台が寄贈され、消防本部に配置する。

1997［平成９年］

４月　消防長に深堀武夫氏が任命される。
消防署に救助工作車Ⅲ型（四輪駆動）１台を配置する。

７月　各分団に小型動力ポンプ搬送車21台を配置する。

南越谷地区防災訓練（南越谷小学校　平成８年３月８日）

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑫

平成８年度標語

「便利さに　慣れて忘れる　火のこわさ」

救助工作車Ⅲ型の配備により、救助工作車が2台運用となる
（平成９年４月１日）

社会の動き・災害等

1996［平成８年］
２月　豊浜トンネル崩落事故
４月～７月　モンゴルで大森林火災
６月　福岡空港ガルーダインドネシア航空機事故
７月　大腸菌Ｏ－157による集団食中毒多発
　　アトランタオリンピック開催
12月　蒲原沢土石流災害、緊急消防援助隊初出動

榎本加奈子さん

高樹沙耶さん

平成９年度標語

「つけた火は　ちゃんと消すまで　あなたの火」

文化財防火デーに伴う消防訓練

社会の動き・災害等

1997［平成９年］
１月　ロシア船籍タンカー・ナホトカ号重油流失事故
４月　消費税率引き上げ（５％）
７月　出水市土石流災害
10月　長野（北陸）新幹線　東京－長野間開業

松本恵さん

COLUMN● 文化財防火デー

毎年１月26日は、「文化財防火デー」です。
文化財を火災・震災その他の災害から守るとともに、日本国民の文化財愛護思想の高揚を図る目的で、昭和30年（1955）に当時の文化財保護委員会（現在の文化庁）と国家消防本部（現在の消防庁）が制定しました。

携帯電話からの119番通報受信を開始

携帯電話からの119番通報受信を開始した指令室

救急フェア会場で演奏する消防音楽隊

防火法被を着て市民に火災予防の広報をするマラソンクラブ員（平成10年11月12日）

HISTORY

1998［平成10年］

２月　埼玉県自治体消防50周年記念式典が埼玉会館で開催される。

３月　谷中分署、間久里分署に高規格救急車を配置する。

４月　消防団長に清田幸治氏が任命される。
　　携帯電話からの119番通報受信転送体制を開始する。

10月　119番通報（救急）受信時、口頭による応急手当指導を開始する。

1999［平成11年］

３月　大相模分署に高規格救急車（災害対応特殊救急自動車）を配置する。

11月　救急救命士資格者８人となる。

救助技術関東地区指導会に出場した隊員
（神奈川県消防学校　平成10年７月24日）

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑬

平成10年度標語

「気をつけて　はじめはすべて　小さな火」

防災訓練での起震車による震度体験

社会の動き・災害等

1998［平成10年］
2月　長野オリンピック開催
7月　パプアニューギニア津波災害
　　和歌山市カレー毒物混入事件

岡崎朋美さん

田村亮子さん

平成11年度標語

「あぶないよ　ひとりぼっちにした　その火」

新方川左岸に造られた大吉調節池

越谷市役所周辺（平成11年）

社会の動き・災害等

1999［平成11年］
8月　トルコ西部地震
9月　台湾中部地震
　　茨城県東海村ウラン加工施設臨界事故
10月　首都高速タンクローリー爆発事故
11月　自衛隊機墜落、東京・埼玉で80万戸
　　停電（狭山市）

内山理名さん

丸山茂樹さん

COLUMN● 大吉調節池

新方川の洪水を防ぐために造られた広さ10.3ヘクタール、貯水量40万トンの調節池です。上空から見ると池の形が越谷市の地形で、池の２つの島は、しらこばとが羽ばたいている形になっています。

埼玉県防災航空隊との連携を強化

防災ヘリコプターから屋上に降下する航空隊員

防災ヘリコプターから降下した航空隊員が負傷者を担架に収容している状況

新越谷駅前での消防訓練。駅ビル内で負傷した傷病者を屋上緊急救助用スペースから防災ヘリコプターで吊り上げ救出する（平成13年11月７日）

火災現場を上空から撮影しながら無線で状況を報告する
（上：南越谷地内　下：大沢地内　埼玉県防災航空隊提供）

HISTORY

2000［平成12年］

４月　消防長に小島日出男氏が任命される。
　　救急救命士９人となる。

11月　大相模分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車（15m級）1台を配置する。

2001［平成13年］

３月　消防緊急通信指令装置Ⅱ型を更新し、運用を開始する。

８月　キャンベルタウン SES（民間緊急援助隊）使節団が視察のため来署する。
　　越谷市定数条例の改正により、消防職員定数270人となる。

12月　消防本庁舎の建て替え工事に着手する。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑭

平成12年度標語

「火をつけた　あなたの責任　最後まで」

葛西用水からの吊り上げ救出訓練（越谷市水上フェスティバル）

社会の動き・災害等

2000［平成12年］

3月　地下鉄日比谷線脱線衝突事故
　　有珠山噴火
6月　三宅島噴火・新島・神津島近海地震
7月　九州・沖縄サミット
9月　シドニーオリンピック開催
10月　鳥取県西部地震
11月　オーストリア・トンネル火災

末永　遥さん

吹石一恵さん

平成13年度標語

「たしかめて。　火を消してから　次のこと」

埼玉県防災ヘリコプターの夜間離発着訓練　埼玉県越谷防災基地
（越谷市北後谷４）

社会の動き・災害等

2001［平成13年］

1月　インド西部地震
3月　芸予地震
5月　青森県弘前市消費者金融事務所
　　放火火災
7月　明石市花火大会集団死傷事故
9月　新宿区歌舞伎町雑居ビル火災
　　米国・同時多発テロ事件

柴咲コウさん

浅香友紀さん

建て替え工事前の消防本庁舎（平成13年３月）

COLUMN●埼玉県防災基地

埼玉県は、物資の備蓄・集配機能などを備えた「防災基地」を５ヵ所に整備しています。越谷防災基地のほか、新座市、秩父市、熊谷市、川島町にあります。基地には、傷病者の搬送や緊急物資等の輸送のためのヘリコプターの離着陸場を併せて整備しています。

消防本庁舎が完成
全国消防救助技術大会出場（陸上の部、水上の部）

消防力強化のため消防本庁舎を新築（平成15年３月）

消防訓練（越谷市役所第２庁舎　平成14年８月28日）

全国消防救助技術大会（陸上の部）はしご登はん訓練で初入賞した隊員（第32回仙台市　平成15年８月28日）

HISTORY

2002［平成14年］

４月　消防団長に島村仁氏が任命される。

12月　越谷市定数条例の改正により、消防職員定数276人となる。

2003［平成15年］

３月　消防本庁舎が完成する。

４月　消防長に杉本昭彦氏が任命される。
消防本部組織改正を行い、総務・予防・警防・指令の４課体制となる。
33年ぶりに女性消防士を採用する。

８月　第32回全国消防救助技術大会に出場し、陸上の部（はしご登はん）で初入賞する。

11月　起震車を配置する。

全国消防救助技術大会（水上の部）溺者救助訓練で入賞した隊員（第32回仙台市　平成15年８月28日）

平成14年度標語

「消す心　置いてください　火のそばに」

埼玉県防災ヘリコプターと連携した救急搬送訓練　埼玉県越谷防災基地（越谷市北後谷４）

社会の動き・災害等

2002［平成14年］

３月　旭化成レオナ工場火災
５月　2002FIFA ワールドカップ日韓同時開催
６月　北海道稚内市中央小売市場火災
10月　三菱重工業長崎造船所豪華客船火災

上戸　彩さん

米倉涼子さん

平成15年度標語

「その油断　火から炎へ　災いへ」

地上100メートルにある屋上緊急救助用スペースに降下中の埼玉県防災航空隊員

北越谷駅前高層建物救出訓練　埼玉県防災ヘリコプターによる吊り上げ救出

社会の動き・災害等

2003［平成15年］

２月～６月　新型肺炎・SARS、中国、東南アジア、カナダ等で猛威
５月　アルジェリア北部地震
　　宮城県沖地震
６月　神戸市伊川谷住宅火災（４人殉職）
８月　三重ゴミ固形燃料発電所爆発火災（２人殉職）
９月　ブリヂストン栃木工場火災
　　平成15年（2003年）十勝沖地震

菊川　怜さん

め組の大吾　山田孝之さん

COLUMN● 緊急救助用（ホバリング）スペース

ヘリコプターが屋上に降りることなく標識（R）の上でホバリング（空中停止）しながら消防隊員がロープ等で降下して、屋上に避難して来た人をホイスト（ワイヤーロープ）で吊り上げて救出する場所を言います。

緊急消防援助隊として災害活動

埼玉県隊として被災地に向かう越谷隊
（長野自動車道　松代 PA　平成16年10月24日）

各県から集結した部隊の宿営地
（小千谷市　白山運動公園　平成16年10月25日）

特殊災害対応訓練
（大相模分署　平成16年２月３日）

小千谷市白山運動公園内のグランドに集結した各機関のヘリコプター

HISTORY

2004［平成16年］

７月　新潟・福島豪雨災害に緊急消防援助隊埼玉県隊として、消火隊１隊、救急隊１隊、隊員10人が現地に赴き活動する。

10月　新潟県中越地震に緊急消防援助隊埼玉県隊として、消火隊１隊、隊員５人が現地に赴き活動する。
新潟県中越地震、M6.8、最大震度７、死者68人。

12月　越谷市定数条例の改正により、消防職員定数292人となる。

2005［平成17年］

４月　消防署組織改正を行い、副署長（兼当直司令）３人体制とする。消防署に指揮担当を設ける。
初の女性消防団員９人を任用する。

新潟県中越地震の災害活動に対し埼玉県知事から表彰を受ける
（知事公館　平成16年12月17日）

平成16年度標語

「火は消した？　いつも心に　きいてみて」

第１回埼玉県東部地域救急フェスタ（越谷市立総合体育館　平成16年９月４日）

起震車で地震による揺れの怖さを体験

長澤まさみさん

小池栄子さん

社会の動き・災害等

2004［平成16年］

３月	六本木ヒルズ自動回転ドア事故	10月	平成16年（2004年）新潟県中越地震
７月	新潟・福島豪雨、福井豪雨	12月	ドン・キホーテ浦和花月店火災
８月	関西電力美浜原子力発電所蒸気噴出事故		スマトラ島沖巨大地震・インド洋津波
	アテネオリンピック開催		

平成17年度標語

「あなたです　火のあるくらしの　見はり役」

緊急出場！

早坂美緒さん

宇梶剛士さん

社会の動き・災害等

2005［平成17年］

２月	中部国際空港開港	10月	パキスタン北部大地震
３月	福岡県西方沖を震源とする地震	12月	ＪＲ羽越線列車転覆脱線事故
４月	ＪＲ福知山線列車転覆脱線事故		
６月	中央省庁で「クールビズ」導入		
８月	宮城県沖を震源とする地震		

大袋分署新庁舎完成・AEDの普及啓発・住宅用火災警報器の設置促進

大袋分署新庁舎が完成、新たに救助工作車Ⅱ型を配置する（平成18年３月）

救命講習会でAEDの取り扱いを指導する

HISTORY

2006［平成18年］

３月　大袋分署新庁舎が完成する。

４月　消防長に藤沼實氏が任命される。
　　消防団長に髙橋明氏が任命される。

７月　AEDを公共施設に設置する。

９月　越谷市防火安全協会から連絡車１台が寄贈され、消防署に配置する。

12月　越谷市定数条例の改正により、消防職員定数301人となる。

2007［平成19年］

４月　消防長に大野實氏が任命される。

婦人防火クラブ員と住宅用火災警報器の設置指導

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑰

平成18年度標語

「消さないで　あなたの心の　注意の火。」

防災行政無線の放送　防災こしがや

平成18年６月１日から一般家庭に設置が義務づけられた住宅用火災警報器

上野真央さん

チョン・ウソンさん

社会の動き・災害等

2006［平成18年］

５月　インドネシア・ジャワ島中部地震
７月　北朝鮮、弾道ミサイル７発発射
８月　首都圏大停電

平成19年度標語

「火は見てる　あなたが離れる　その時を」

消防・防災航空隊・医療機関の連携による救急搬送訓練
（河川防災ステーション）

埼玉県防災ヘリコプターに負傷者を収容し医療機関へ搬送する

片岡安祐美さん

関根麻里さん

社会の動き・災害等

2007［平成19年］

１月　兵庫県宝塚市カラオケボックス火災
３月　能登半島地震
７月　平成19年（2007年）新潟県中越沖地震
８月　熊谷市・多治見市（岐阜県）で40.9度の国内最高気温
10月　米国カリフォルニア州で森林火災、約100万人が避難

越谷レイクタウンまちびらき 市民に愛される消防を目指して

まちびらきした越谷レイクタウン（平成20年３月）

レイクタウンで防災訓練

調節池を活用し消火

防災ヘリ上空から

越谷レイクタウン複合商業施設での消防訓練（平成20年９月21日）

越谷市民まつりでのミニ防火衣撮影コーナー（平成20年10月19日）

音楽を通して火災予防を呼びかける消防音楽隊の定期演奏会（越谷コミュニティセンター大ホール 平成20年３月２日）

HISTORY

2008［平成20年］

３月　越谷市消防音楽隊の第10回定期演奏会を越谷コミュニティセンター大ホールで開催する。

４月　消防団長に深野弘氏が任命される。

９月　越谷レイクタウンまちびらきに伴い（日本最大級ショッピングモール）消防訓練を実施する。

10月　消防署に救急隊１隊を増隊し、７隊となる。

TOPICS●「火災予防運動」全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑱

平成20年度標語

「火のしまつ　君がしなくて　誰がする」

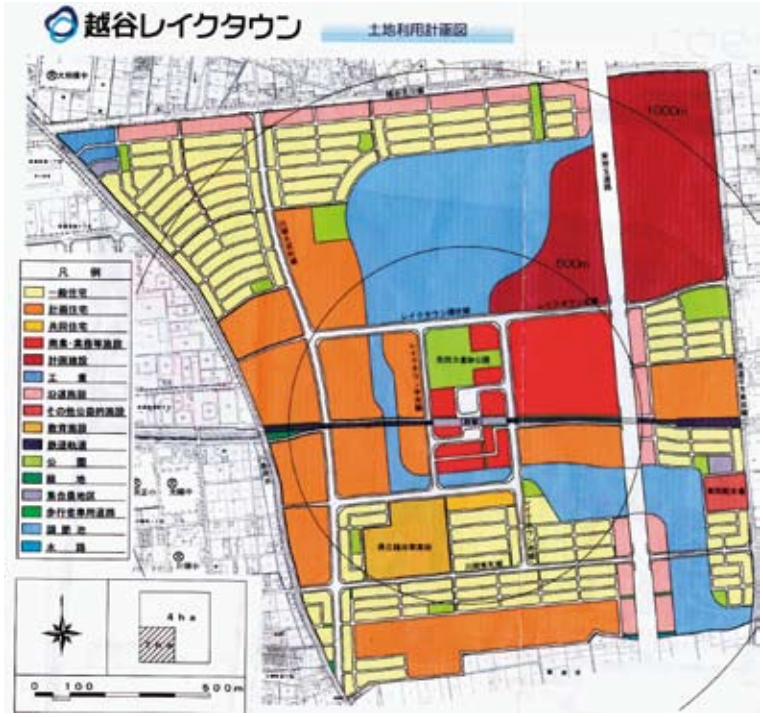
ＢＣ（生物剤、化学剤）災害対応訓練（越谷駅　平成20年２月29日）

消防親子デー（大袋中学校　平成20年７月21日）

社会の動き・災害等

2008［平成20年］

２月　韓国・ソウル市　崇礼門（南大門）火災
３月　自治体消防制度60周年記念式典開催
６月　平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震



越谷レイクタウン土地利用計画図

伊藤英明さん／内野聖陽さん

小倉優子さん

北乃きいさん

COLUMN●越谷レイクタウン

越谷レイクタウンは越谷市の東南部に位置し、市の中心核である越谷駅周辺・南越谷駅周辺を補完する副次核の一つです。越谷レイクタウン事業は、河川事業（調節池）と土地区画整理事業による新市街地整備を一体的に進めるもので、全国初のモデル的なまちづくりとして、「親水文化」を創造し、21世紀にふさわしい「新しく水との共存文化を創造する都市」の形成を目指すものです。

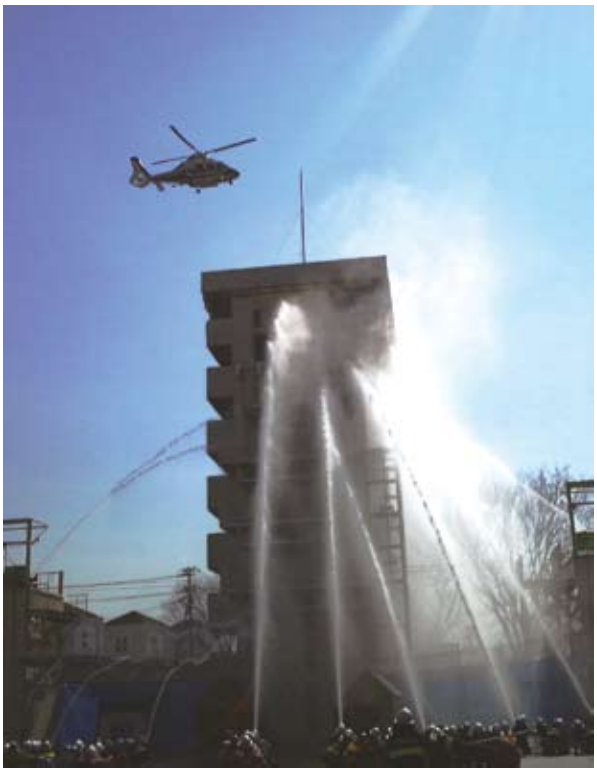
平成20年３月のまちびらき時点では、北口駅前交通広場を含む都市計画道路、駅前の見田方遺跡公園が完成し、越谷レイクタウンを特徴付ける大規模な調節池も概ね完成し、10月には複合商業施設がオープンしました。

越谷市消防本部発足50周年
今、また新しい越谷消防の幕開け

平成22年開署予定の蒲生分署（イメージ図）

水難救助訓練（平成21年５月27日）

越谷駅東口再開発事業に着手（イメージ図）



明日の消防士を目指して（埼玉県消防学校初任科実科査閲）

HISTORY

2009［平成21年］

６月　蒲生分署の建て替え工事に着手する。

９月　越谷市消防開設50周年記念事業で「消防キッズフェア」を開催する。

平成21年度標語

「消えるまで　ゆっくり火の元　にらめっ子」

消防自動車のペーパークラフト展示

社会の動き・災害等

2009［平成21年］

６月　食品工場火災（神戸市）消防職員１人殉職

７月　パチンコ店放火火災（大阪市）

高山侑子さん

福原　愛さん

「消防キッズフェア」　消防寸劇に見入る子どもたち（平成21年９月19日）

ＡＥＤの取り扱い方法を説明（第35回越谷市民まつり　平成21年９月27日）

テロ対策実動訓練（越谷レイクタウン　平成21年10月16日）

テロ対策実動訓練　化学防護服を着装し負傷者を救出する訓練

福田沙紀さん

南　明奈さん

越谷市消防開設50周年記念

『消防キッズフェア』開催

昭和34年10月１日に開設した越谷市消防本部・消防署は、本年50周年の節目の年を迎えました。開設50周年を記念して『消防キッズフェア』を平成21年９月19日、消防庁舎、市立第１体育館を会場に開催しました。

音楽にあわせて手遊び

開会宣言（消防長）

消防音楽隊の演奏

子どもレスキュー体験

はしご車の搭乗体験

救助隊員による消防寸劇

消防団員によるパネルシアター

第 2 章

災害に強いまちづくり

火災から市民の生命と財産を守る

警防業務は、消防の業務の中で町火消し時代から続く最も伝統的な業務であり、火災等を警戒、鎮圧し、防除するために行う活動です。市民の生命、財産を火災等から保護し、その被害を軽減することを目的としています。

火　災

近年の火災は、社会態様の変化により複雑化の傾向が強くなってきており、そのため、火災防ぎょ活動には多角的な知識と応用が必要になります。

多量の黒煙を上げ延焼する作業所火災

消火活動

屋内進入

いかなる災害現場においても、沈着冷静に対応できる能力、体力及び精神力を備えた消防職員を育成するために各種訓練を行います。

消 防 訓 練

災害現場において消防活動の円滑並びに効率的な運用が図れるように指揮隊を核とした合同訓練を実施しています。

指揮本部長が各隊に対し活動方針を下命

情報収集、火災防ぎょ、負傷者救出、緊急脱出、一斉放水訓練を実施

埼玉県防災航空隊の防災ヘリコプターによる消火訓練

連 携 訓 練

市内の高層建物において火災が発生した場合に備えて埼玉県防災航空隊と連携し、屋上からの救出訓練と県内５箇所の防災基地の一つである埼玉県越谷防災基地で離発着訓練を実施しています。

高層建築物の緊急救助用スペースからの救出訓練

埼玉県越谷防災基地において年１回行われる夜間離発着訓練

高圧ガス対応訓練

高圧ガス輸送中や高圧ガス取り扱い事業所における災害事故を想定した訓練や実験を行うことにより、災害時における緊急措置、災害拡大防止、保安管理技術を向上させるとともに、関係防災機関の協力体制の確立、防災意識の高揚を図ることを目的として実施します。

水膜による漏えい物の拡散防止

アセチレンガスの燃焼消火訓練

BC（生物剤・化学剤）対応訓練

テロを含むＢＣ災害に対する消防活動時には、対応する専門的な資機材の整備、常日頃の点検と訓練及び隊員のＢＣに関する知識・技術・判断力が要求されます。

警戒区域の設定、立入り禁止の措置とともに 原因物質の検知・回収・負傷者の救出・救助、現場の除染作業等の一連の初動対処訓練を実施

水難救助訓練

消防署員らによるボートの組み立て訓練、操縦訓練及び人命救助訓練を行います。これは、河川に誤って転落した際や台風などにより河川が氾濫した際、溺者等を救出することが目的で、有事の際には消防職員が迅速に行動し救助することができるように行われるものです。

大雨による河川の氾濫。台風による雨で増水し、水没した北越谷第五公園付近

潜水訓練

救命ボート取り扱い訓練

自衛消防訓練

「自分のところは自分で守る」という自衛消防の基本のもと、自治会や事業所において各種の訓練が行われています。

消火訓練（水消火器）

消火訓練（粉末消火器）

毛布を使用した応急担架の作製訓練

三角巾を使用した応急手当訓練

煙中体験

起震車による震度体験

市民、消防、医療機関の連携に基づく救命率の向上を目指す

救急業務は、社会情勢の著しい変化に伴い、高度化、多様化への対応が求められています。これらの要望に応えて、尊い命を救い救命率を向上させるために、応急手当の普及啓発や救急隊員の専門教育の強化、高度救命資器材の整備など、救急体制の充実を図っています。

高度な救命処置が可能な救急救命士制度が誕生して18年が経過し、全国ほとんどの地域で救急救命士が活動しており、越谷市では、救急救命士37名が活躍しています。

救急救命士

救急救命士は、専門教育を受け国家試験に合格して初めて資格を得ることができます。

処置範囲の拡大

平成16年７月からは気管挿管、平成18年４月からは薬剤投与（アドレナリン）が医師の具体的指示のもとで実施することが可能となりました。気管挿管及び薬剤投与は、病院実習を含む教育研修を修了した救急救命士にのみ認められています。

外傷の観察訓練

重症の外傷傷病者は緊急度の高い疾患であることが多く、現場において的確な判断と素早い処置が必要となるため、訓練を行っています。

救急隊と消防隊の連携訓練

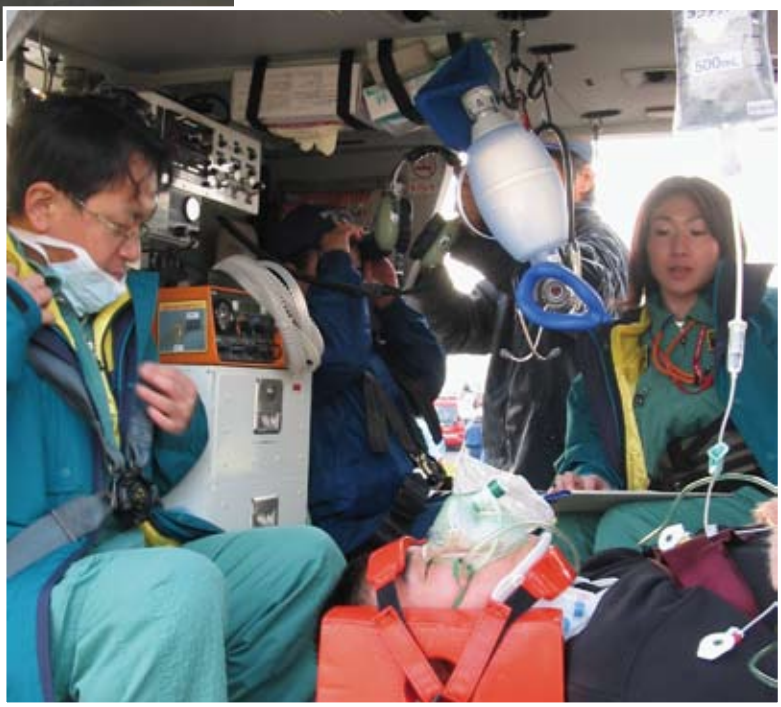
搬出困難な傷病者及び重篤な傷病者を迅速に搬送するため、消防隊と救急隊が連携した訓練を行っています。

高層階から傷病者を搬出する際、救急隊と消防隊が連携して搬送します

救急隊と消防隊が連携し、傷病者に救命処置を実施しながら収容します

ドクターヘリとの連携訓練

ドクターヘリは、救急専用の医療機器を装備したヘリコプターに医師及び看護師等が同乗して救急現場に向かい、早期治療の開始、救急搬送時間の短縮を図ることにより、救命率の向上や後遺症を軽減することを目的としています。



埼玉医科大学総合医療センターから出動するドクターヘリに救急隊が傷病者を迅速に収容できるよう連携訓練を行っています。

救急現場想定効果確認訓練

多種・多様な救急活動を想定し、出場から病院に収容して医師に引き継ぐまでの活動の手順を確認する訓練です。

傷病者接触時を想定し、関係者からの事情聴取、観察や処置を行っています

救急車内収容時を想定し、救急救命士による救命処置を行っています

脳卒中や心筋梗塞等、いくつかの病態の中から想定が付与され、活動基準に従い医師の指導のもと訓練を行っています。

病院到着時を想定し、医師への引き継ぎ、二次救命処置の医療補助を行っています

訓練実施後、医師の指導のもと検討会を行っています

救命講習会

「大切な命を救えるのはあなたです！」

救急現場に居合わせた人による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られます。こうしたことから、市民の方々に応急手当の知識と技術が広く普及するよう救命講習会を定期的に開催しています。

年間約2,500人の市民の方に救命講習会を受講していただき、命のリレーの担い手となっていただいています。

また、１人でも多くの市民に心肺蘇生法を体験していただくため、市民まつりや救急フェア等において広く啓発しています。

胸骨圧迫（心臓マッサージ）

人工呼吸（口対口）

AED の使用方法

自動体外式除細動器（AED）

平成16年７月から一般市民も自動体外式除細動器（AED）を使用できるようになりました。

心臓の筋肉の不規則なけいれん（細動）を取り除くため、電気ショックを与える機器です

電源を入れると音声メッセージと点滅するランプで実施すべきことを指示してくれます

市内には、269台（埼玉県に登録されている台数）の AED が設置されています（平成21年10月現在）

救急資器材

救急車内

ストレッチャー
傷病者を収容する場合に使用します。

救急資器材

半自動体外式除細動器
心電図の波形を表示するモニターがついています。

吸引器
口腔内の異物を吸引するのに使用します。

呼吸管理セット一式
酸素投与や人工呼吸時に使用します。

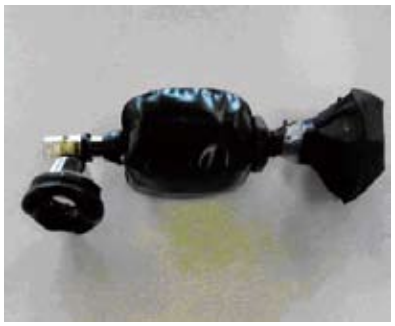
ネックカラー
頸部を固定し保護する器具です。

ネックカラーを装着したところ

防刃チョッキ
刃物から身を防護します。

全脊柱固定具一式
脊髄損傷の疑いのある傷病者を固定する器具です。

救急資器材



バックマスク
人工呼吸時に使用します。

喉頭鏡
口腔内を確認するときに使用します。

血中酸素飽和度測定器
動脈血酸素飽和度を測定する器具です。

ベッドサイドモニター
血圧や心電図等を測定するために用います。

救急救命士が行う救命処置資器材

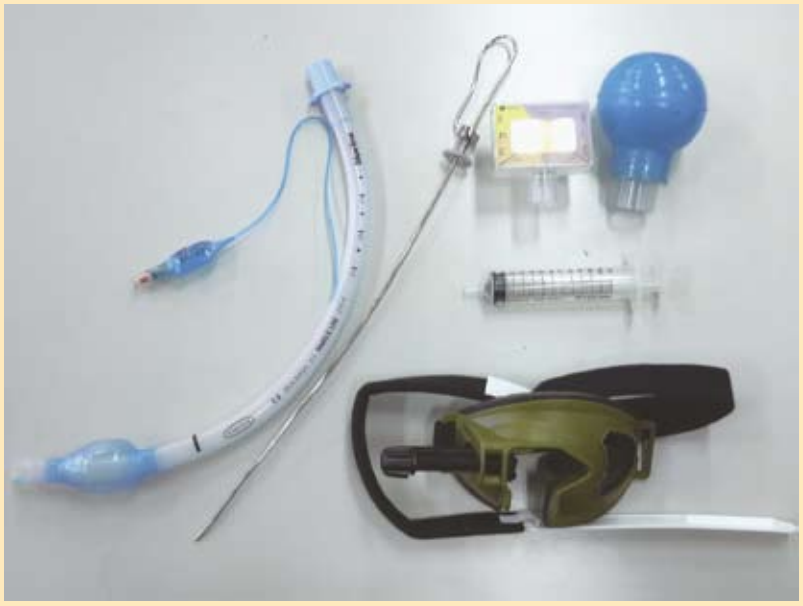
ラリンゲアルマスク

ラリンゲアルチューブ

コンビチューブ

WBチューブ

人工呼吸が必要な傷病者の気道を確保するために使用します。



気管挿管チューブ
胃内容物の誤嚥（ごえん）を避けることができる最も確実な気道確保器具です。

輸液セット一式
薬剤投与のための輸液路を確保し、傷病者の循環管理をするために使用します。

アドレナリン
心停止の傷病者に使用する薬剤です。

人命救助が最優先　あらゆる災害に挑む救助隊

救助業務は、災害や事故により生命又は身体に危険が及んでいる要救助者を救助資機材等により安全な場所に救出し、救護することを目的としています。

救助隊は、あらゆる危険性の中において、災害内容を冷静機敏に判断し、救助資機材を十分に活用して人命救助を最優先し活動しています。

現在、消防署及び大袋分署に特別救助隊を谷中分署及び大相模分署に救助隊を配置し、市民の信頼と期待に応えられるよう救助体制の充実強化に努めています。

交通事故現場（大型トラック×普通乗用車）

特別救助隊による懸命な救出活動訓練

火災想定訓練

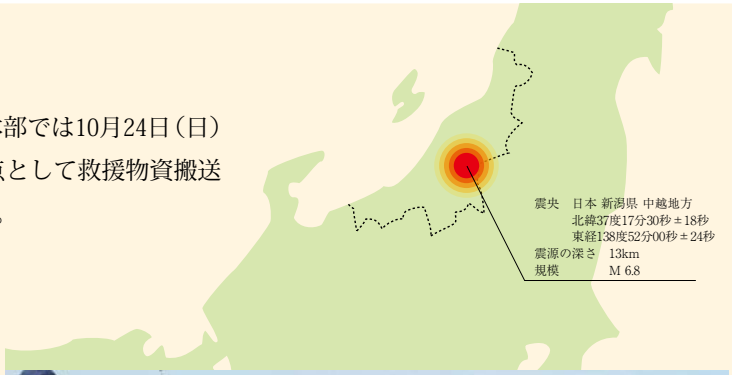
緊急消防援助隊

緊急消防援助隊は、平成７年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の教訓を踏まえて、大規模な地震や特殊災害等の広域災害時に、都道府県を越えて、迅速かつ効果的に人命救助等の応援活動を実施することを目的に平成７年に創設されました。主な出動事例は、平成16年新潟県中越地震、平成17年ＪＲ西日本福知山線列車事故、平成19年能登半島地震、新潟県中越沖地震や平成20年岩手・宮城内陸地震です。

越谷市消防本部では、平成16年に消火部隊及び救急部隊、平成18年に救助部隊を緊急消防援助隊に登録しました。

新潟県中越地震災害活動

平成16年10月23日（土）17時56分に発災。越谷市消防本部では10月24日（日）８時00分に出動する。小千谷市白山運動公園を活動拠点として救援物資搬送活動を実施し、10月26日（火）８時03分に帰署しました。



埼玉県緊急消防援助隊部隊編成

指揮隊	３隊	12名	救助部隊	13隊	70名
救急部隊	８隊	24名	消火部隊	７隊	34名
支援部隊	７隊	28名			

埼玉県隊　計38隊　168名

埼玉県隊の宿営地（白山運動公園）に到着

小千谷市内の道路状況

妙見堰崩落現場（新潟県小千谷市）

平成20年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練

大規模地震が発生したことを想定し、緊急消防援助隊が迅速かつ的確な対応を行う体制を確保するため、実践的な訓練を実施し、消防応援活動調整本部の効果的な運用をはじめとする被災想定都市の受援体制について検証するとともに、緊急消防援助隊相互の連携強化の向上を図ることを目的として毎年実施されます。

関東ブロック１都８県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、山梨県、長野県、静岡県）の緊急消防援助隊と神奈川県内消防部隊で約200部隊が参加しました。

車両火災（トンネル内）消火・救出訓練
平成20年11月19日、20日にわたり新横浜公園にて平成20年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練が行われ、蒲生分署救急隊３名が救急部隊として参加し、負傷者のトリアージ及び応急処置、災害医療チームと連携し現場活動訓練を行いました。

八都県市合同防災訓練

地震による被害を最小限に食い止めるため、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市の六都県市は、昭和55年に初めて合同訓練を実施しました。その後、平成４年からは千葉市が、さらに平成15年からは、さいたま市が加わり、現在の八都県市で８月30日から９月５日の防災週間内に合同訓練を実施しています。

平成18年度埼玉県八都県市合同防災訓練
平成18年９月１日に訓練会場である「八潮市立大原中学校」にて消防署特別救助隊５名が参加しました。

平成19年度埼玉県・加須市合同総合防災訓練
平成19年９月２日に訓練会場である「パストラルかぞ」にて消防署特別救助隊５名が参加しました。

救助技術指導会

救助技術指導会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、消防救助隊員が一同に会し、競い、学ぶことにより、他の模範となる消防救助隊員を育成し、市民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。また、広く市民に、消防の技術の高さ、力強さ、優しさをアピールするとともに、常に住民の目線に立って大会内容を研究し、未来志向の大会とすることを目標としています。

引揚救助

斜めブリッジ救助

基本泳法

溺者救助

ほふく救出

ロープブリッジ救出

救助資機材

画像探索機Ⅰ型
倒壊建物の内部状況を確認したり、生存者の探索などをするもので、高感度CCDカメラを使い温度センサー、集音マイク、ガス検知チューブで内部状況の把握や送気チューブから生存者へ空気を送ることができます。

地中音響探知機
倒壊した建物、崩壊した土砂に埋もれた要救助者の発する振動、音響を探知し、存在を特定する探知機です。

熱画像直視装置（アルゴス）
あらゆる物体の表面から出ている赤外線をとらえ、白黒の熱画像にして、微妙な温度差を目視で確認できます。

夜間用暗視装置
微弱な光を電気的に増幅し、暗闇でも目標物を鮮明に視認することができる装置です。

空気呼吸器（29.4MPa　5リットルボンベ）
煙、有毒有害ガス、酸素欠乏空気等から消防隊員を保護するために、消防活動に欠かすことのできない重要な器具です。

インパルス消火銃
空気ボンベと消火剤容器（容量約12リットル）が一体となった個人携行型の消火装備です。

発電機付投光機（背負い式）
夜間の災害時に、照明用として必要な器具一式がセットになっていて、背負って搬送可能な資機材です。

三連はしご
（チタン製掛金安全装置付）
架てい可能な高さ（最大8.7m）の調整、器具重量（31kg）の軽量化、操作手順が容易であることから消火活動や救助活動等に幅広く活用されています。

充電式切断機（ブレードカッター）
バッテリーモーターにより安全に鉄材、ステンレス鋼、軽合金、その他の非金属及びプラスチック、木材などを切る携帯用ノコギリです。

めざせ火災ゼロ　市民の命を守る予防活動

近年の建築物は、より高度な建築技術の開発とともにますます大規模化、高度化、深層化、特殊化等が進展し、利便性を考慮したさまざまな用途や使用形態を兼ね備えた複合ビルとして建築される傾向にあります。これにより日常の防火管理をはじめとする予防管理体制の確保が一層複雑化しています。そのため、予防行政も従来の建築同意事務、予防査察、危険物規制事務に加え、防火安全協会、婦人防火クラブ、幼年消防クラブと協働で火災ゼロをめざし、多様な行事や活動を行っています。

また、消防音楽隊の活動を通じて火災予防や消防情報を広報し、市民とのふれあいの中で防火意識の高揚を推進しています。

予防査察

雑居ビルや危険物施設に対して予防査察を行い、消防用設備等の維持管理や危険物の取り扱い、防火管理の適正化について指導し、火災予防に努めています。

物品販売店舗への立入検査

防災教室

市内在住の外国人の方を対象に防災教室を開催しています。参加者は水消火器による消火訓練、ＡＥＤ（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）による心肺蘇生法を学びました。

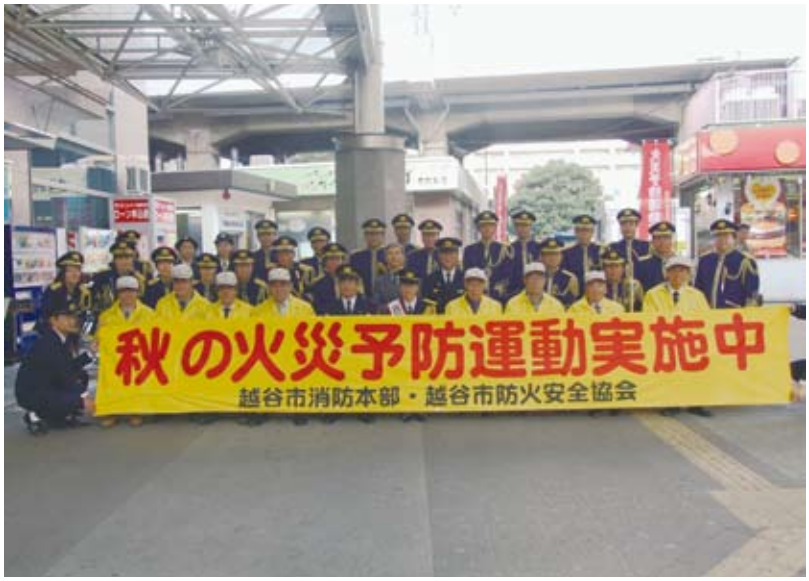
「私たちはいざというとき、どうしてよいか分からないので勉強になりました」と話していました。

水消火器による消火訓練

ＡＥＤを使用した心肺蘇生法訓練

越谷市防火安全協会

越谷市防火安全協会は、会員相互の融和親睦と危険物又は消防用設備等の取り扱い及び管理の向上並びに防火管理体制を確立し、災害防止に努めるとともに社会公共の福祉の増進を目的に昭和32年７月に設立されました。現在、356事業所で構成され、自社の安全確保はもちろんのこと、研修会を開催して自己研さんに努めるほか、各事業所が参加する屋内消火栓操法大会をはじめ、平成21年度は小学生の火災予防ポスター展を開催するなど、さまざまな火災予防広報活動や一般家庭への消火器普及活動などを行っています。



防火安全協会と消防音楽隊による火災予防駅頭広報（新越谷駅）

会員県外研修会（海上保安庁横浜海上防災基地〈平成21年７月８日〉油流出処理方法の説明を受ける）

婦人防火クラブ

婦人防火クラブは、主に家庭の主婦を中心に構成され、安全な地域社会づくりを目指すことを目的に結成されました。

定期的に研修会を開催して防火に対する知識、見識を深めるとともに、地元に密着した火災予防啓発活動や住宅用火災警報器の普及活動などを行っています。

平成２年度に７クラブ、100名で結成され、平成21年度では、45クラブ、1,422名に広がっています。

婦人防火クラブ研修会

住宅用火災警報器の設置普及に向けた講習会

幼年消防クラブ

幼稚園児、保育園児を対象に、幼年期における火に対する正しい知識の普及を目的に結成されました。春・秋の火災予防運動期間中には駅頭での防火広報活動や幼年消防まつりを開催しています。

昭和63年度に４クラブが結成され、平成21年度では18クラブに広がっています。

18クラブ合同の幼年消防まつり

越谷市民まつりパレードで火災予防を呼びかける

防火管理講習会

甲種防火管理新規講習会は、防火管理者として必要な資格の取得を目的として毎年４回開催しています。甲種防火管理再講習会は、防火管理業務を適切に行っていくうえでの知識、技能の更新を目的とし、毎年１回の開催です。受講者数は、新規講習会で約300名、再講習会で約30名の方が受講しています。

防火管理講習会

防火管理講習会

屋内消火栓操法大会

屋内消火栓の取り扱いと操作技術を習熟し、初期消火能力の向上と自衛消防活動の強化を図るため、市内の事業所が参加して平成３年から毎年開催しています。

平成20年の第18回大会では、男子18チーム、女子８チームが参加し、操法技術を競いました。

第18回屋内消火栓操法大会

消防音楽隊

消防音楽隊は、「市民に愛される音楽隊を目指して」をスローガンに、音楽を通して広く火災予防を呼びかけようと平成４年に結成しました。防火防災広報活動はもとより、市民まつりや児童館コンサートなど、年間約20回の演奏活動を行っています。

また、平成10年から開催している定期演奏会は11回を数え、越谷コミュニティセンター大ホールを満席にするなど好評を得ています。（隊員数30名）

第11回定期演奏会

第11回定期演奏会客席

駅頭での火災予防広報活動

一日消防署長は、春・秋の火災予防期間に駅頭で市民の皆さんに火の用心を呼びかけるなど、火災予防広報の一翼を担っています。

平成21年春の火災予防運動（蒲生駅）

平成20年秋の火災予防運動（北越谷駅）

一日消防署長、女性消防団「さくら」、越谷市防火安全協会役員、越谷市消防音楽隊が合同で火災予防広報を行いました。

平成20年春の火災予防運動（蒲生駅）

119番 早い通報 あなたの命を救う

指令業務は、災害通報を受理し、情報を迅速・的確に把握するとともに、災害に適した部隊の編成から指令、事案管理までを消防緊急情報システムで行い、災害による被害の軽減や救命率の向上を目的としています。

通信指令室

一刻を争う緊急通報に備え、通信指令室では24時間体制で対応しています。

主要機器の概要

指令台

○指令台操作部
　無線操作及び指令放送の制御などを行います。
○日本語ディスプレイ
　災害地点や災害種別に応じた出場隊の自動編成等を行います。
○地図等検索装置
　緊急通報場所を特定するために必要となる種々な情報を登録しています。

ＩＴ情報端末装置

　各指令台に配置されており、次の装置と接続され、複数のシステムを１台のコンピュータで制御することにより、操作性・効率性を高めます。
○ WEB119（聴覚障がい者からの緊急通報受理）・災害情報提供装置（災害の発生状況のメール配信）
○気象観測装置・消防情報支援システム
○埼玉県防災情報システム･埼玉県医療情報システム（インターネット網）
○指令台保守運用装置・状況表示管理装置

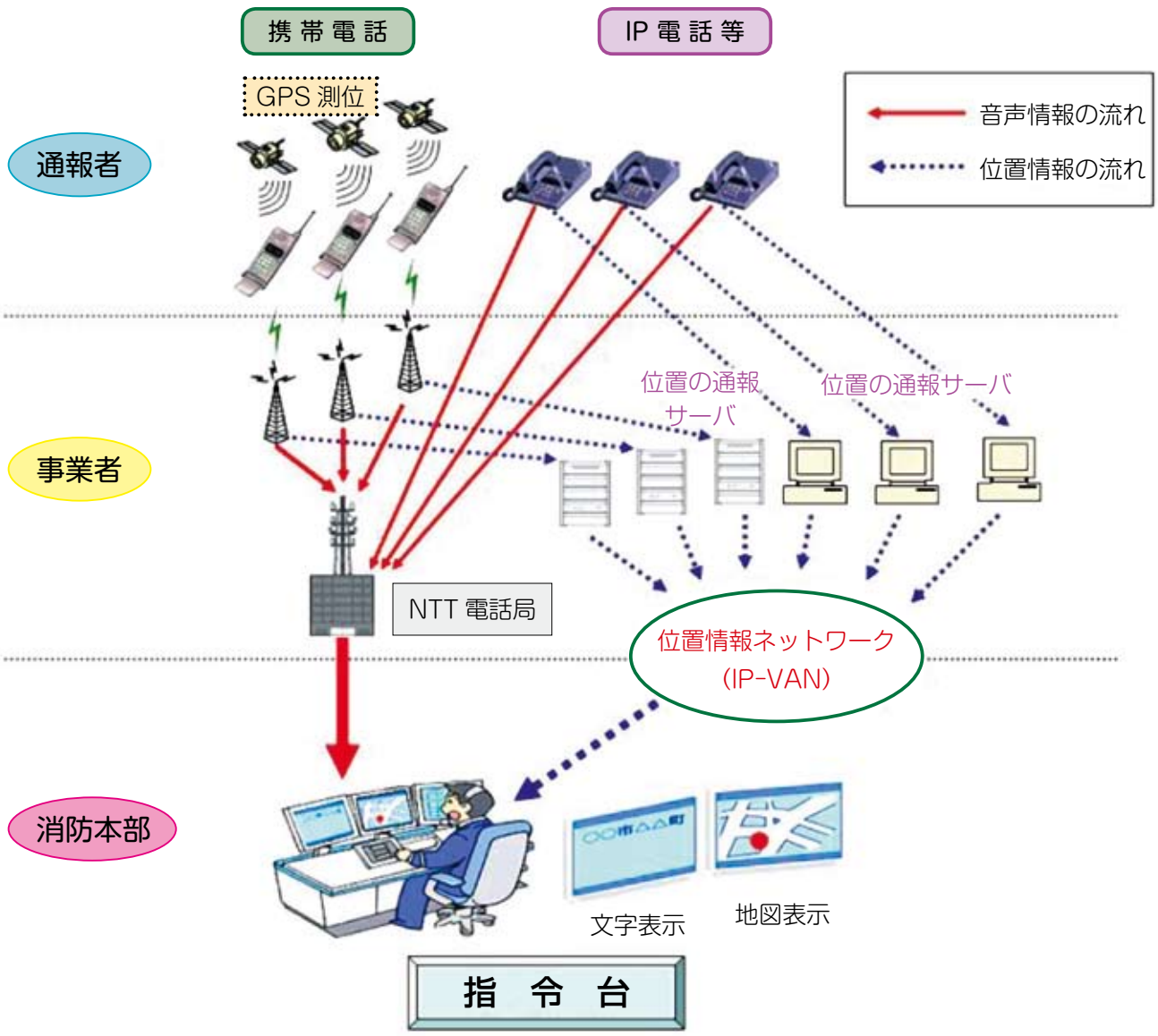
無線統制台

　大規模災害などにより無線通信が輻輳したときに無線を統制し、通信を確保するとともに、効率的な運用を図ります。

指令伝送出力装置（左）・署所端末装置（右）

　音声合成による出場指令とともに、災害現場の住所及び地図付きの指令書が、瞬時に出力されます。

携帯電話・ＩＰ電話等からの119番通報位置情報システム



携帯電話・ＩＰ電話等からの119番通報では、119番通報位置情報システムを導入しています。

特に、屋外からの携帯電話による119番通報は地理や住所が分からない場合が多く、通報者の発信位置を迅速に把握することにより、災害現場到着時間の短縮を図ることができます。

気象情報収集装置

越谷市内の気象状況を観測し、災害時の活動に重要となる気象情報を収集しています。

また、観測データが一定の基準に該当した場合は、火災警報を発令します。

○観測所

消防本庁舎
蒲生分署（雨量観測のみ）
間久里分署（雨量観測のみ）

車両動態管理（ＡＶＭ）装置（車載端末装置）

車両の動態を管理し、効率的な出場車両の編成を行います。

出場した車両の動態を無線回線を通じて指令台に通知し、消防本部で把握する装置です。

車載無線機

災害通信や業務通信を行うため、各消防車両には車載無線機が積載され、指令室（基地局）との無線交信をしています。

携帯無線機

隊員相互の情報伝達手段として、携帯無線機を携行しています。

指揮統制無線機

指揮隊が災害現場において部隊統制を行います。

守れわがまち　地域防災の担い手

消防団は、単に消火活動のみならず、地震や風水害等多数の動員を必要とする大規模災害時の救助、避難誘導、災害防ぎょ活動など非常に重要な役割を果たします。さらに、平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導等の活動を通して、地域の安全・安心の確保に尽力しています。

越谷市消防団　11分団　42部　413名　（平成21年10月現在）

消防団特別点検

消防団特別点検における訓練礼式

団員を諸制式に熟練させ、その部隊行動を確実軽快にし、厳正な規律を身につけさせ、消防諸般の要求に適応させるための基礎を作ることにあります。

女性消防団「さくら」

ポンプ操法

ポンプ操法は、消防活動の基礎となる知識と技術を身につけ、消防団員間の連携を高め、士気の高揚を図ることを目的に行われるものです。ポンプ車操法、小型ポンプ操法、軽可搬ポンプ操法があります。

ポンプ車操法

小型ポンプ操法

「第19回全国女性消防操法大会」出場

（女性消防団「さくら」）

開催日：平成21年10月22日　開催会場：横浜市消防訓練センター

操法大会は、軽可搬ポンプ（D-1級）と３本のホース等を使用し、５名の隊員が協力し合い、手びろめによる二重巻きホースを一線延長し、ポンプを操作して標的に放水します。２つの標的を落とす時間と行動、操作、安全性、士気、規律、機械器具の精通等を審査し、操法技術を競います。

全国大会での操法

操法大会出場に向けての訓練

全国47都道府県の中で第４位「優秀賞」を獲得

消防団フェア

消防団活動に対する地域住民の理解と関心を深めるとともに、防火・防災意識の高揚を図るため、「消防団フェア」を開催しています。

消防団フェア開会を待つ団員

消防団リーフレットを配布し、入団を呼びかける

カラー風船、ポケットティッシュを配布し、防火を呼びかける

消防団活動のパネル展示

越谷支部研修会

越谷市消防団と八潮市消防団で組織する埼玉県消防協会越谷支部の研修としてＡＥＤの取り扱いの訓練をしています。

AED の取り扱いを指導する団員（指導員資格者）

AED の取り扱い訓練をする団員

第 3 章

消防施設・消防車両

消防本部・署

竣　　工：平成15年３月20日

所 在 地：越谷市大沢二丁目10番15号

構　　造：鉄骨鉄筋コンクリート造４階建

建築面積：1,157.96㎡

延 面 積：3,590.62㎡

１階：1,090.07㎡　車庫、防火衣室、防災体験・展示コーナー、救急消毒室、仮眠室など
２階：1,108.20㎡　消防署事務室、指令室、会議室、職員食堂、仮眠室など
３階：　691.78㎡　消防本部事務室、消防団室、相談室、書庫など
４階：　676.42㎡　講堂、会議室など
Ｒ階：　24.15㎡
電話番号：048-974-0101

防災体験・展示コーナー

119番通報、煙中避難、初期消火の模擬体験などや防災機器・用品等を展示しています。

119番体験施設
緊急事態に遭遇した場合の電話通報を模擬体験できます。

防災機器・用品展示
住宅用火災警報器や防炎製品などを展示しています。

煙中避難体験施設
煙についての正しい知識と避難の方法が体験できます。

腕用ポンプ展示
昭和初期に火災現場で使用されていたポンプです。

初期消火体験施設
消火器の取り扱い方法が体験できます。

半鐘展示
火の見やぐらの上部などに取り付け、火災や洪水発生時などに鳴らし、消防団員や住民に知らせていました。

谷中分署

竣　　工　昭和46年２月17日
所 在 地　越谷市谷中町四丁目23番地
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
建築面積　278.75㎡
延 面 積　570.94㎡
電話番号　048-964-9119

蒲生分署

竣　　工　昭和48年２月20日
所 在 地　越谷市蒲生寿町４番６号
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
建築面積　253.44㎡
延 面 積　563.44㎡
電話番号　048-986-9119

間久里分署

竣　　工　昭和52年３月20日
所 在 地　越谷市大字下間久里1004番地１
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
建築面積　315.84㎡
延 面 積　594.05㎡
電話番号　048-976-9119

大相模分署

竣　　工　昭和58年11月21日
所 在 地　越谷市相模町五丁目29番地
構　　造　鉄筋コンクリート造２階建
建築面積　455.43㎡
延 面 積　757.70㎡
電話番号　048-986-2119

大 袋 分 署

竣　　工　平成18年２月27日
所 在 地　越谷市大字大道329番地１
構　　造　鉄筋コンクリート一部鉄骨造２階建
建築面積　760.17㎡
延 面 積　1,079.55㎡
電話番号　048-971-0119

分署附属施設
高圧ガス（空気）充填施設

設置場所　谷中分署
竣　　工　昭和49年７月16日
構　　造　コンクリートブロック造平屋建
建築面積　8㎡

設置場所　大相模分署
竣　　工　平成元年３月31日
構　　造　コンクリートブロック造平屋建
建築面積　6.7㎡

消防車両編

消防ポンプ自動車

従前車両

昭和44年配置

昭和55年配置

現用車両

消防ポンプ自動車

消防ポンプ自動車水槽付

水槽付消防ポンプ自動車

従前車両

昭和34年開署時に配置

昭和61年配置

現用車両

水槽付消防ポンプ自動車

屈折はしご付消防自動車

従前車両

昭和46年配置

昭和60年配置

現用車両

15m級屈折はしご付消防ポンプ自動車

はしご付消防自動車

従前車両

昭和56年配置

現用車両

38m級はしご付消防自動車

救急自動車

従前車両

昭和37年配置（運用開始時の初代救急車）

昭和46年配置

昭和43年配置

昭和55年配置

現用車両

高規格救急自動車

救助工作車

従前車両

平成２年配置（初代救助工作車Ⅱ型）

現用車両

消防ポンプ付救助工作車Ⅱ型

救助工作車Ⅲ型

化学消防ポンプ自動車

従前車両

昭和46年配置

現用車両

化学消防ポンプ自動車

指 揮 車

従前車両

指令広報車

現用車両

指揮車

消 防 団

従前車両

昭和35年配置

現用車両

消防団消防ポンプ自動車

小型動力ポンプ搬送車

その他の車両

現用車両

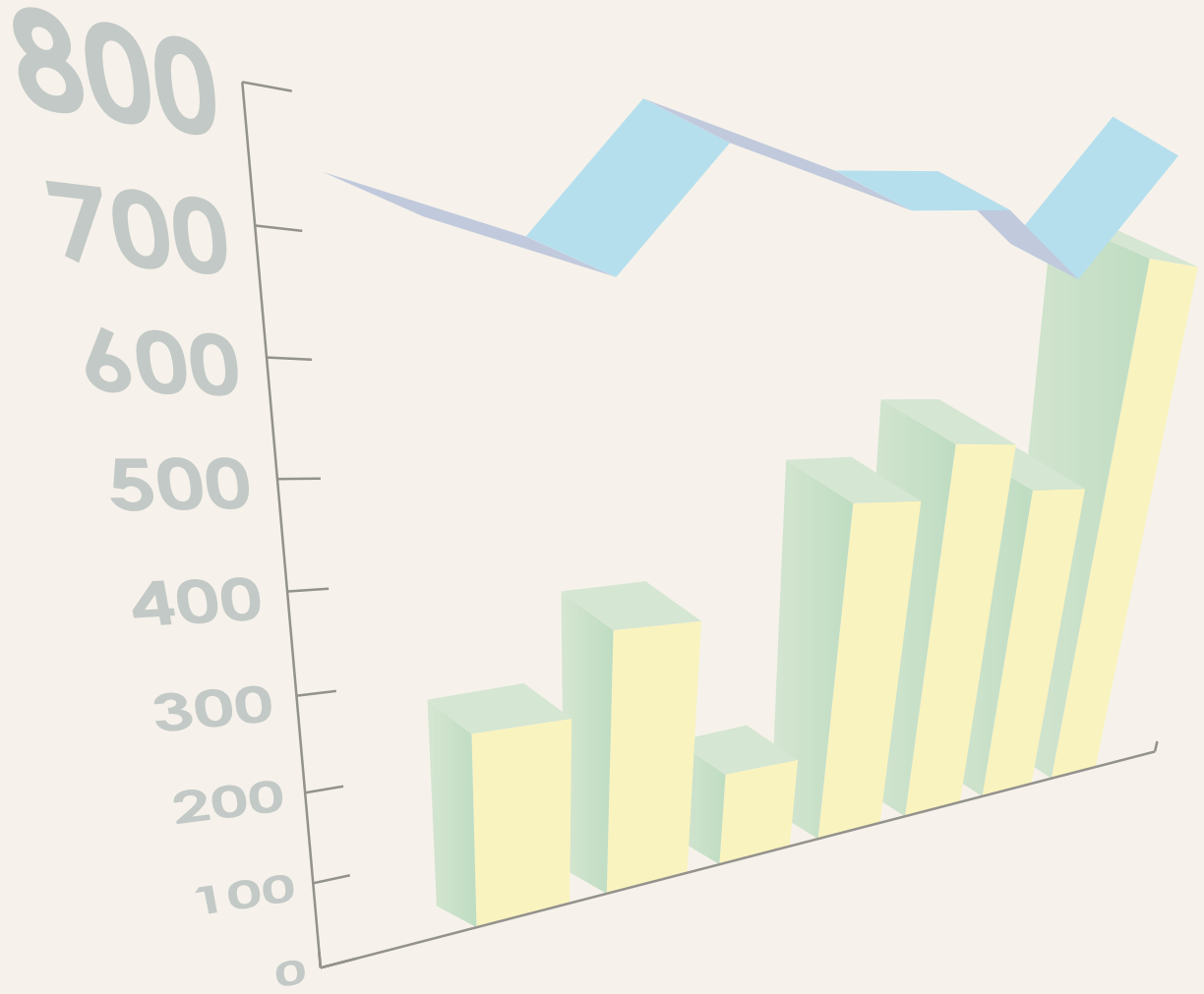
起震車

現用車両

消火通報訓練指導車

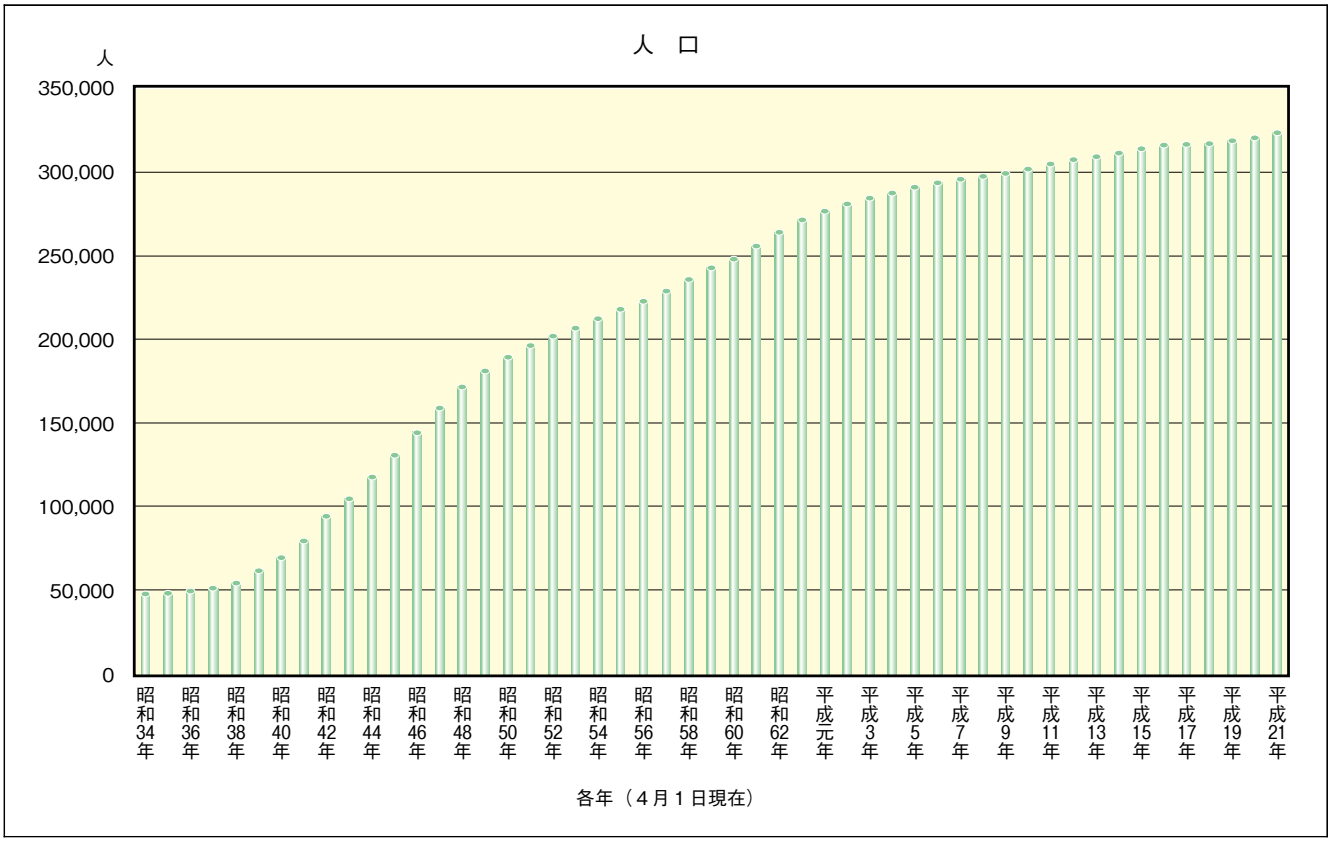
第4章

データから見た消防

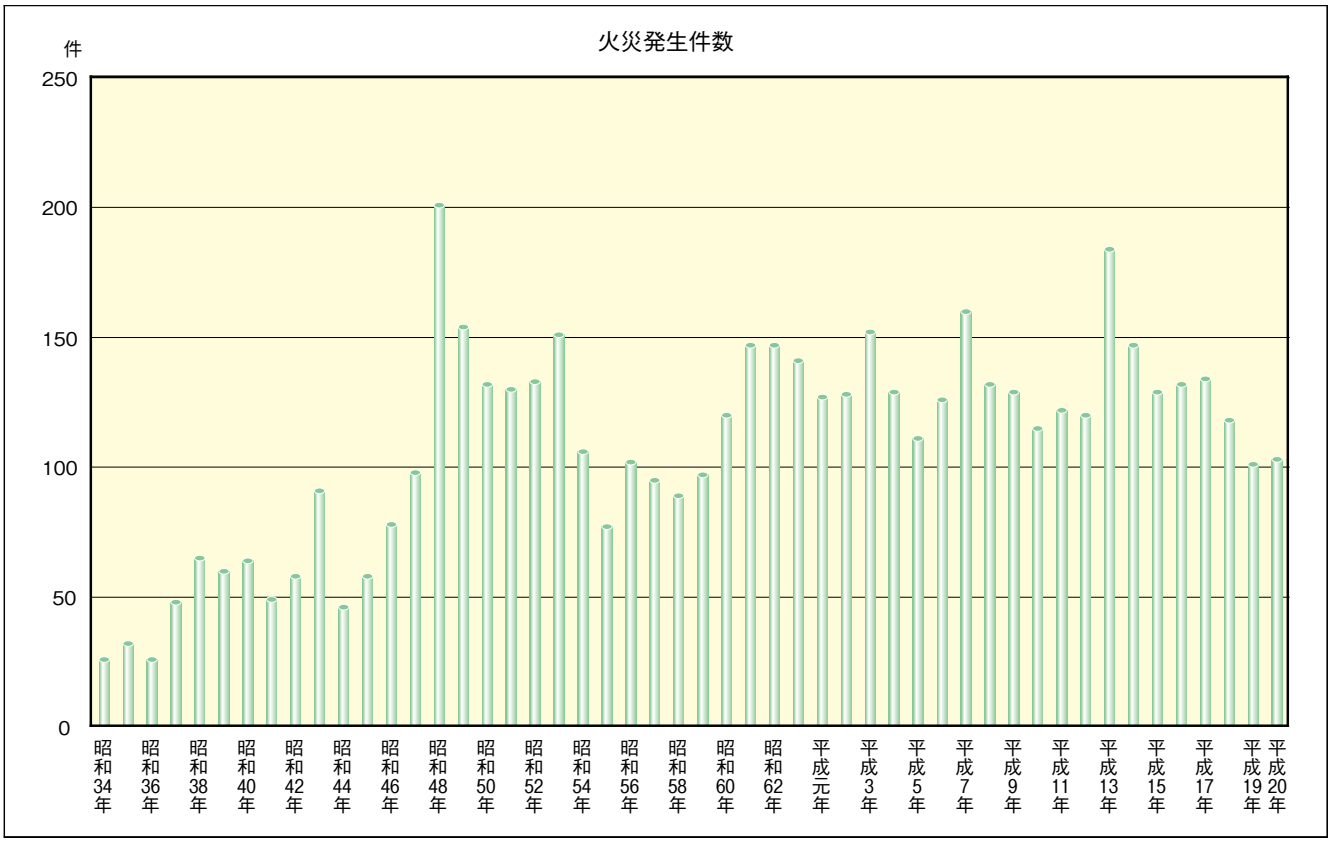


データから見た消防

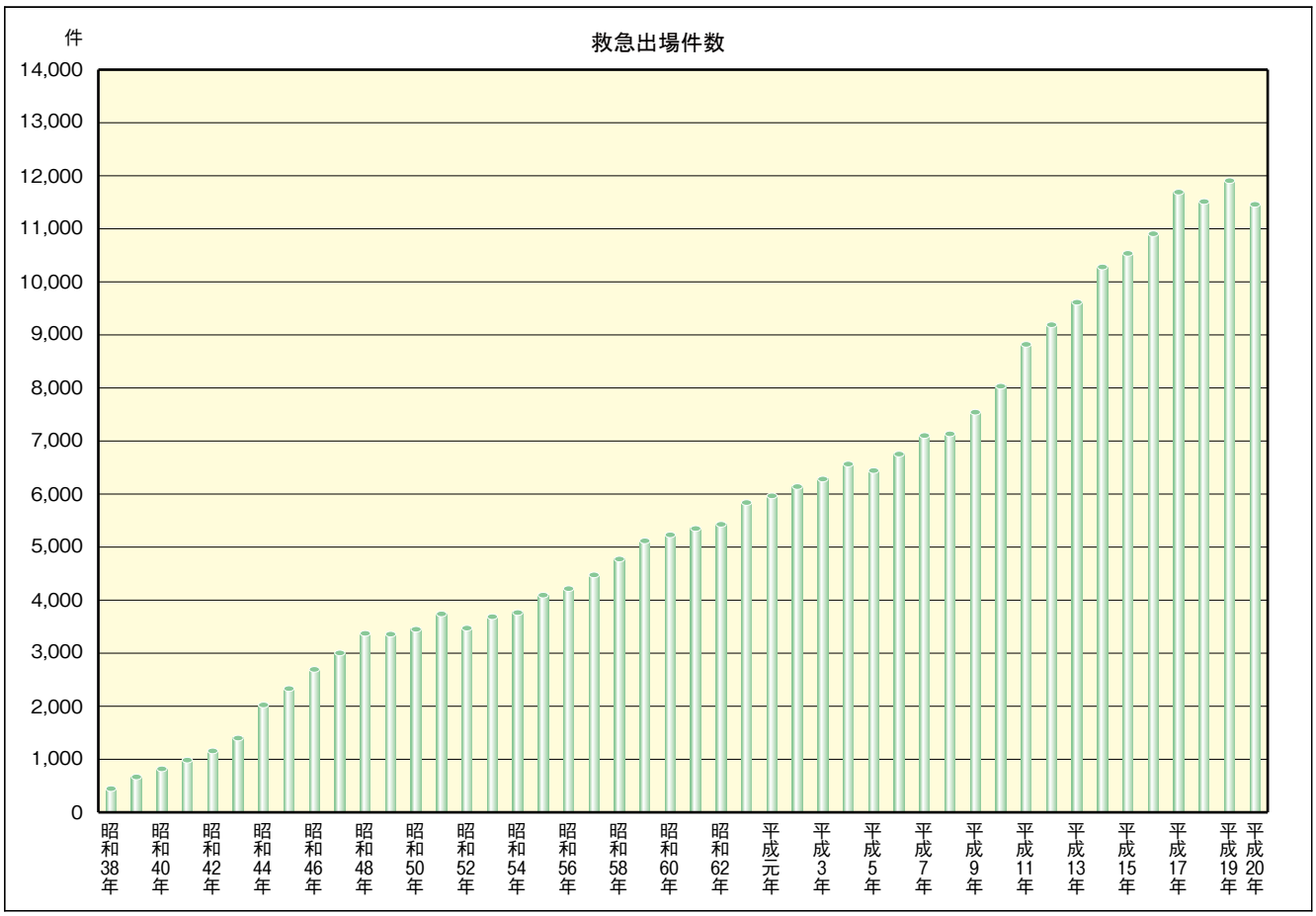
人口の推移



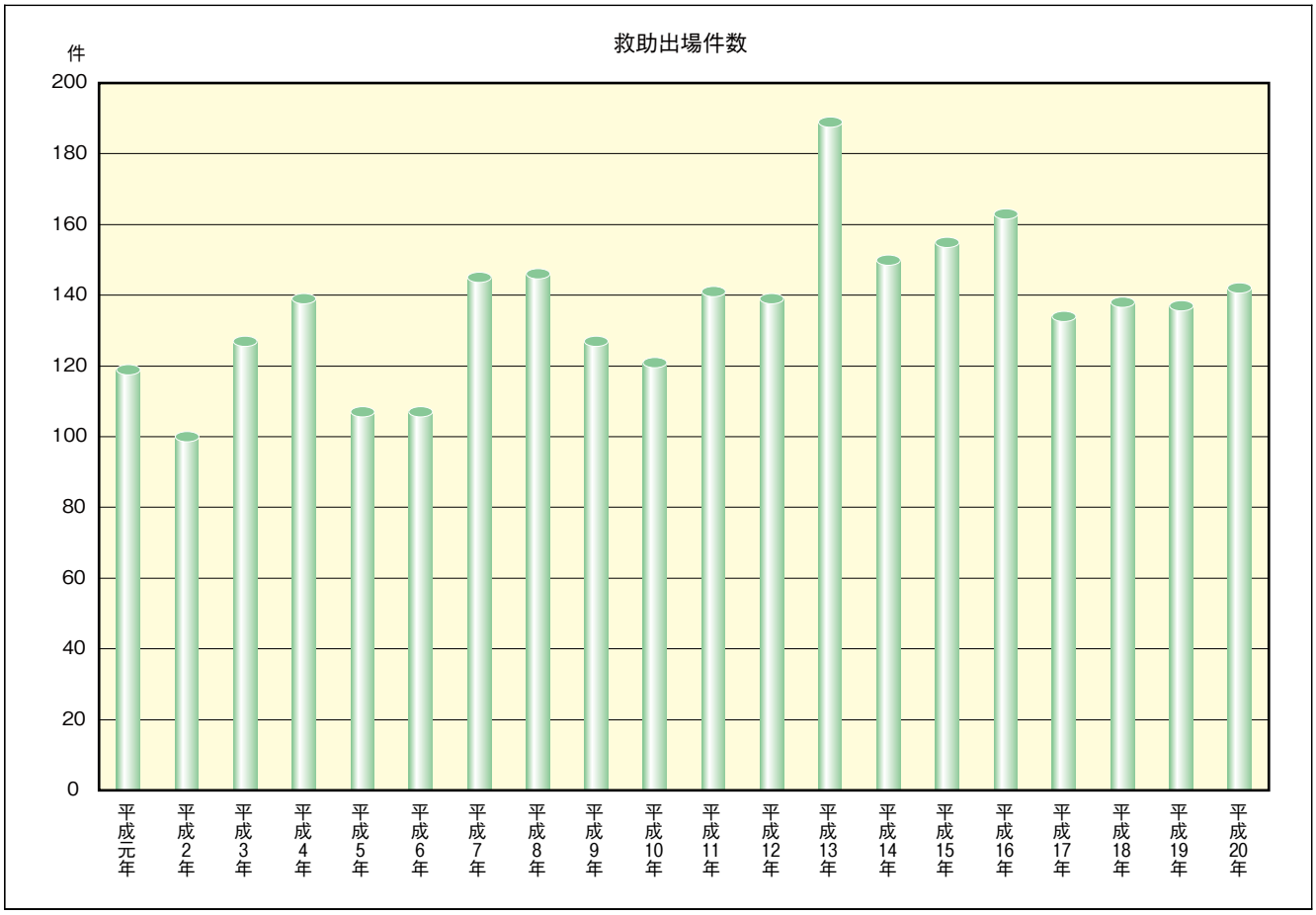
年別火災件数の推移



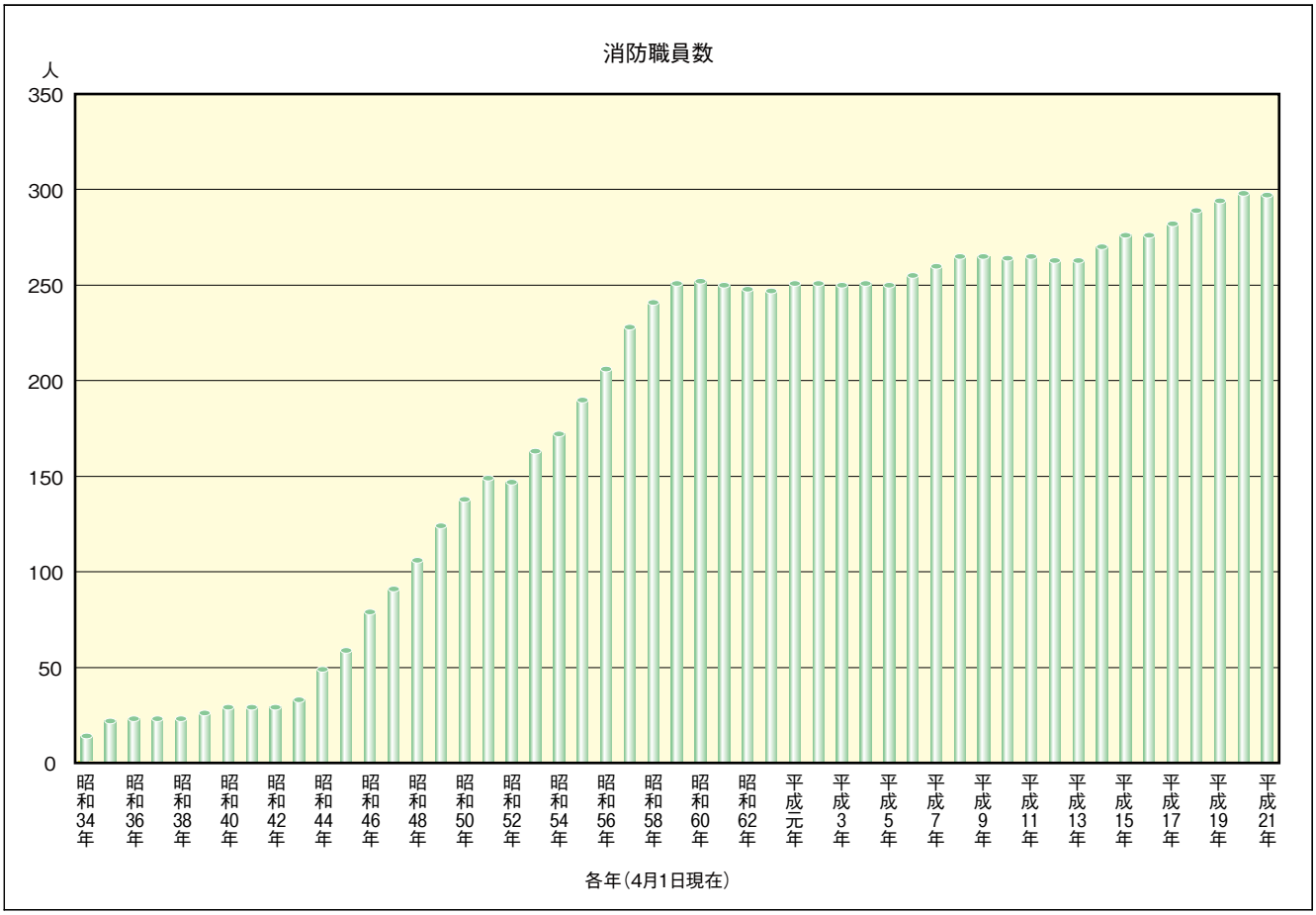
年別救急件数の推移



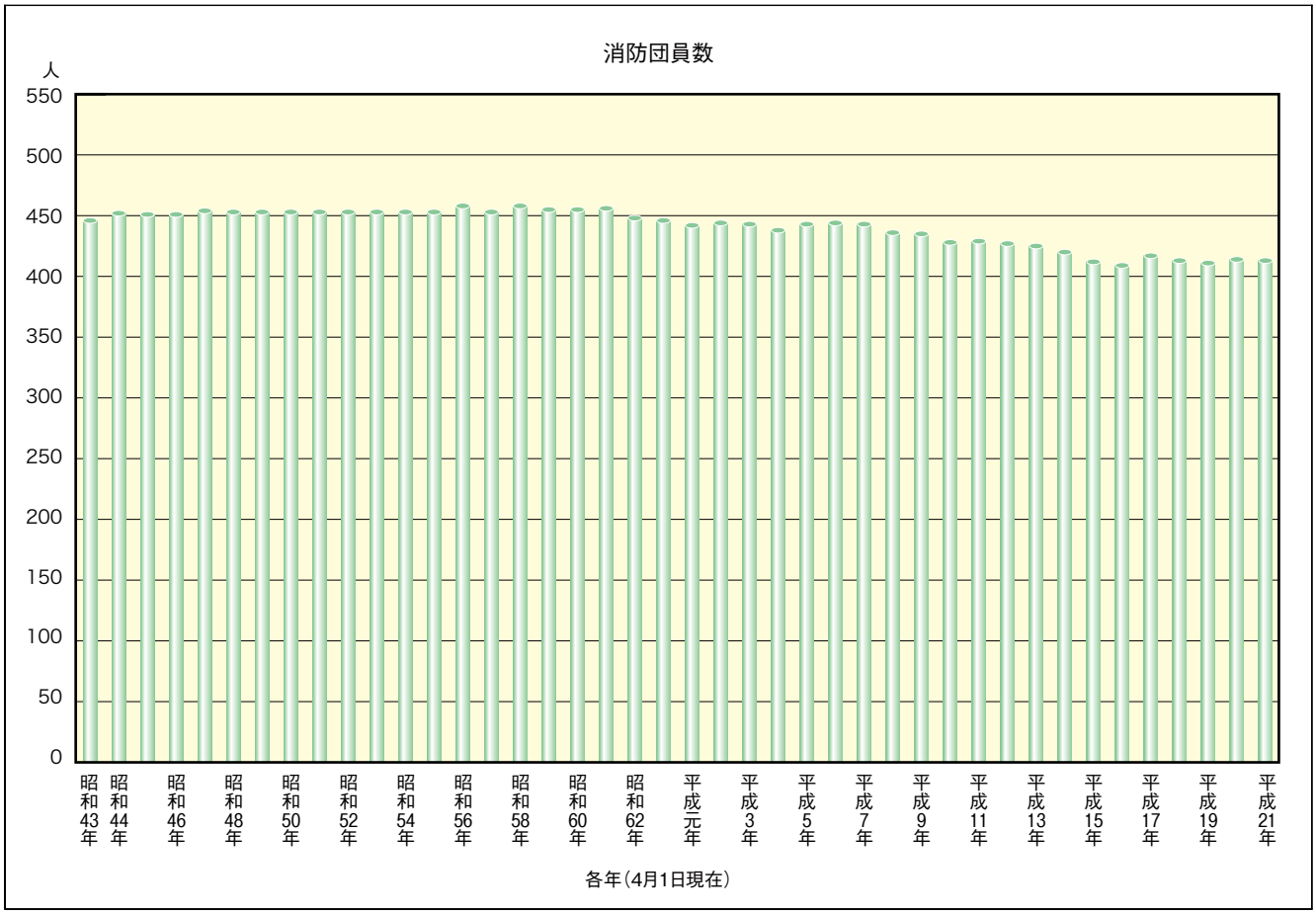
年別救助件数の推移



消防職員数の推移

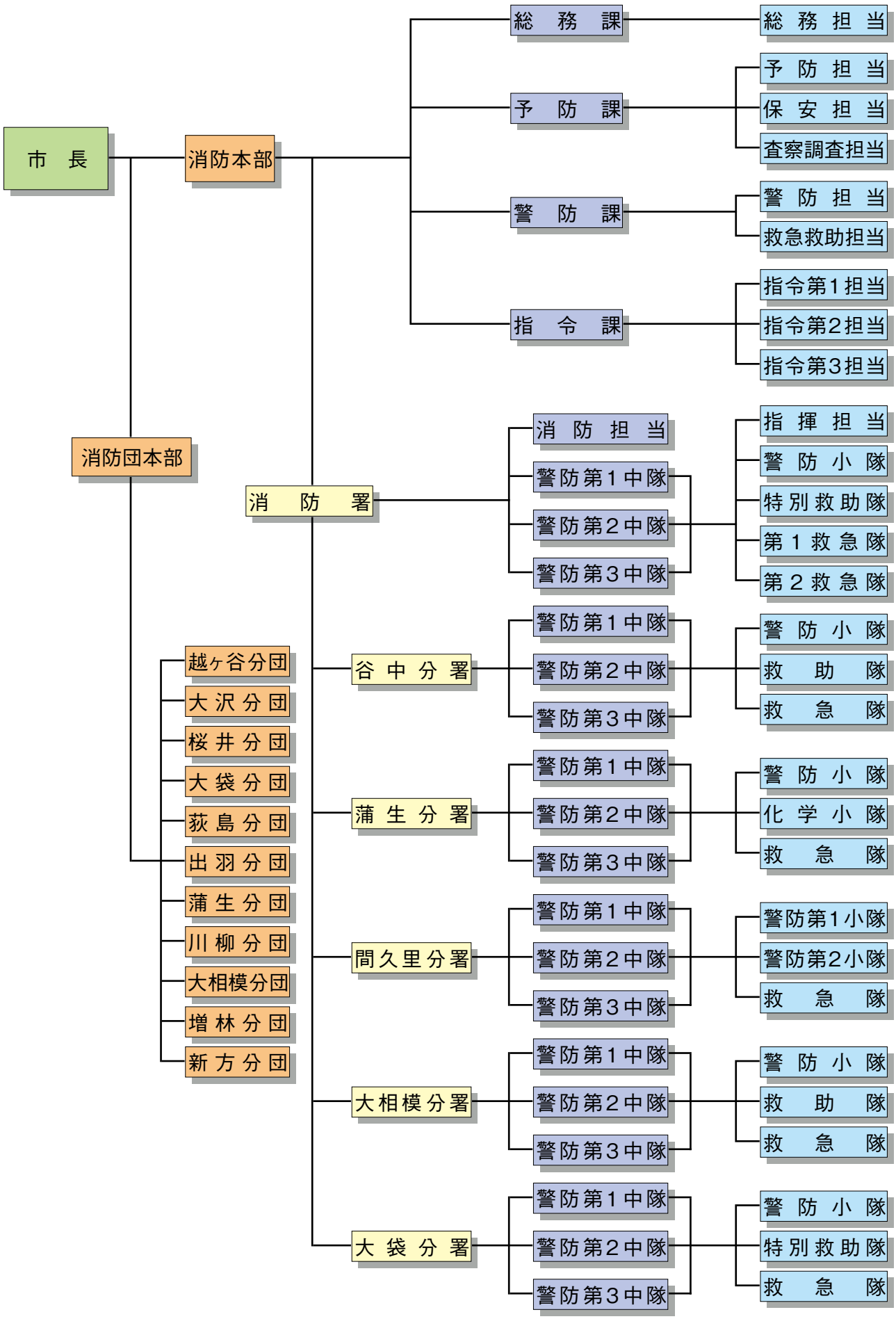


消防団員数の推移

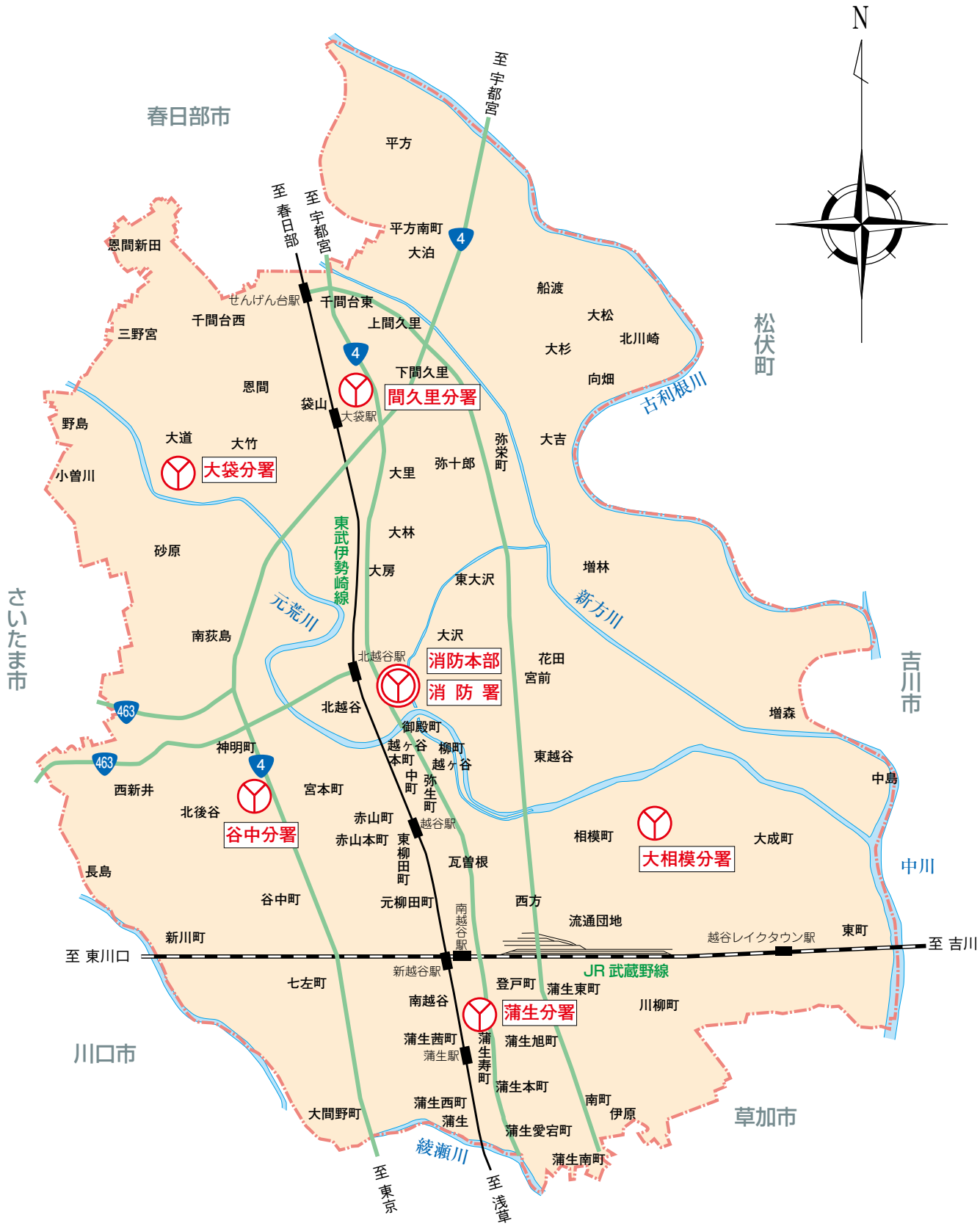


消防機構図

平成21年4月1日現在



消防署所配置図


N
春日部市
松伏町
さいたま市
吉川市
川口市
草加市
至 宇都宮
至 春日部
至 宇都宮
至 東京
至 浅草
至 東川口
至 吉川
JR 武蔵野線
東武伊勢崎線
古利根川
新方川
元荒川
中川
綾瀬川
平方
平方南町
大泊
恩間新田
せんげん台駅
千間台東
千間台西
上間久里
三野宮
船渡
大松
北川崎
大杉
向畑
下間久里
恩間
袋山
大袋駅
間久里分署
野島
大道
大竹
大袋分署
小曽川
大里
弥十郎
弥栄町
大吉
大林
砂原
大房
東大沢
増林
南荻島
大沢
北越谷駅
消防本部
消 防 署
花田
宮前
北越谷
増森
御殿町
神明町
越ヶ谷本町
柳町
越ヶ谷
東越谷
中島
西新井
宮本町
中町
弥生町
北後谷
谷中分署
赤山町
赤山本町
越谷駅
東柳田町
相模町
大成町
大相模分署
長島
瓦曽根
谷中町
元柳田町
南越谷駅
西方
流通団地
新川町
越谷レイクタウン駅
東町
新越谷駅
七左町
登戸町
蒲生東町
南越谷
蒲生分署
川柳町
蒲生茜町
蒲生駅
蒲生寿町
蒲生旭町
蒲生本町
蒲生西町
蒲生
南町
伊原
大間野町
蒲生愛宕町
蒲生南町

歴代消防長

代	氏　名	就　任　期　間	備　考
初　代	大　塚　伴　鹿	昭和34年10月～昭和42年11月	兼務（市長）
2　代	大　貫　亥　蔵	昭和42年12月～昭和43年10月	
－	永　野　悦　郎	昭和43年11月～昭和46年３月	消防長職務代理（署長）
3　代	永　野　悦　郎	昭和46年４月～昭和47年２月	
－	島　村　平市郎	昭和47年３月～昭和48年12月	消防長事務取扱（市長）
4　代	島　村　利　一	昭和49年１月～昭和50年３月	
5　代	菅　家　義　雄	昭和50年４月～昭和62年３月	
6　代	中　野　　功	昭和62年４月～平成９年３月	
7　代	深　堀　武　夫	平成９年４月～平成12年３月	
8　代	小　島　日出男	平成12年４月～平成15年３月	
9　代	杉　本　昭　彦	平成15年４月～平成18年３月	
10　代	藤　沼　　實	平成18年４月～平成19年３月	
11　代	大　野　　實	平成19年４月～現在に至る	

歴代消防団長

代	氏　名	就　任　期　間	備　考
初　代	荒　井　政太郎	昭和29年11月～昭和35年10月	
2　代	降　田　清一郎	昭和35年11月～昭和45年９月	
3　代	中　野　喜平治	昭和45年10月～昭和53年１月	
4　代	森　山　　武	昭和53年２月～昭和62年３月	
5　代	白　鳥　庄　造	昭和62年４月～昭和63年３月	
6　代	鈴　木　清　康	昭和63年４月～平成４年３月	
7　代	遊　馬　重　誉	平成４年４月～平成10年３月	
8　代	清　田　幸　治	平成10年４月～平成14年３月	
9　代	島　村　　仁	平成14年４月～平成18年３月	
10　代	髙　橋　　明	平成18年４月～平成20年３月	
11　代	深　野　　弘	平成20年４月～現在に至る	

消防協力関係団体

越谷市防火安全協会　歴代会長

代	氏　名	就　任　期　間	備　考
初　代	井　橋　吉　蔵	昭和32年７月～昭和52年６月	
2　代	岡　安　幸太郎	昭和52年６月～平成13年５月	
3　代	小　林　政　一	平成13年５月～現在に至る	

越谷市婦人防火クラブ連絡協議会　歴代会長

代	氏　名	就　任　期　間	備　考
初　代	岡　村　照　子	平成５年４月～平成11年３月	
2　代	小　林　寿美子	平成11年４月～現在に至る	

越谷市幼年消防クラブ連絡協議会　歴代会長

代	氏　名	就　任　期　間	備　考
初　代	植　竹　浄　水	平成５年４月～現在に至る	

過去の災害のあらまし

西暦	年　　月	場　所	摘　　要
1949	昭和24年３月	越ヶ谷	越ヶ谷小学校講堂、校舎焼失
1957	昭和32年８月	大　沢	東武劇場火災
1958	昭和33年３月	大　沢	住宅火災、強風にあおられ延焼、13世帯焼失
1958	昭和33年４月	大　沢	大沢中学校校舎１棟焼失
1958	昭和33年10月	越ヶ谷	越ヶ谷大作（赤山町）の工場火災、死者６名、重傷者６名、軽傷者６名
1961	昭和36年12月	大　沢	給油所火災、タンクローリーで地下タンクへ注油中出火、負傷者５名
1962	昭和37年11月	増　林	東福寺焼失、練炭火鉢から出火
1964	昭和39年８月	越ヶ谷	越ヶ谷映画劇場火災
1965	昭和40年７月	越ヶ谷	工場火災、負傷者２名、1,175.82㎡焼失
1966	昭和41年９月	越ヶ谷	赤山踏切で東武電車と東武バスが衝突、死者４名、重傷者３名
1968	昭和43年１月	新　方	大吉の徳蔵寺焼失
1972	昭和47年９月	桜　井	桜井小学校放火により校舎１棟半焼
1973	昭和48年４月	荻　島	不燃物捨場火災、ブルドーザー出動、12時間消火作業
1973	昭和48年12月	蒲　生	蒲生温泉火災
1974	昭和49年２月	越ヶ谷	店舗付共同住宅、パチンコ店２階から出火、７世帯全損
1974	昭和49年11月	桜　井	３階建店舗付住宅でプロパンガス爆発、６世帯が被害
1975	昭和50年１月	出　羽	倉庫火災、ブルドーザー等を使用し、約15時間消火作業
1975	昭和50年７月	大　沢	公衆浴場火災
1975	昭和50年８月	蒲　生	古紙再生促進センター火災、鎮火まで約９時間
1975	昭和50年10月～11月	大　袋	車両等連続放火、車両火災11件、その他の火災２件
1976	昭和51年３月	蒲　生	作業場付共同住宅火災、死者２名、負傷者５名
1976	昭和51年12月	新　方	倉庫火災、電気溶接の火花が飛び寝具類に着火、1,030㎡焼損、損害額２億1,300万円
1977	昭和52年１月	越ヶ谷	複合ビル火災、スナックバー等焼ける
1977	昭和52年３月	新　方	一般住宅ガス爆発、30棟被害
1977	昭和52年９月	大　袋	放火で北中学校体育館１棟全焼
1978	昭和53年10月	越ヶ谷	木工所、工場、住宅等６棟全半焼
1979	昭和54年６月	蒲　生	工場１棟、1,470㎡焼損

西暦	年　　月	場　所	摘　　要
1979	昭和54年11月	出　羽	住宅火災、３棟全焼、１棟半焼、死者１名
1980	昭和55年３月	荻　島	長屋住宅火災、１棟７世帯及び住宅等３棟が全半焼
1980	昭和55年４月	蒲　生	住宅火災、４棟全半焼、他５棟が罹災、死者１名
1980	昭和55年７月	新　方	住宅火災、１世帯４名のうち死者２名、負傷者２名
1980	昭和55年12月	越ヶ谷	大型店舗半焼、430㎡焼損
1981	昭和56年10月22日		台風24号　床上浸水223戸、床下浸水1,851戸、道路冠水（市内道路の20％）
1982	昭和57年９月12日		台風18号、床上浸水3,610戸、床下浸水3,869戸、道路冠水延べ450km、田畑冠水1,364.2ha、住宅浸水7,715ha
1984	昭和59年２月15日	大相模	工場火災、全焼３棟、他５棟罹災
1984	昭和59年３月18日	出　羽	家具倉庫火災、854㎡焼損、約２億4,000万円の損害
1984	昭和59年４月４日	川　柳	倉庫火災、１棟全焼
1984	昭和59年10月31日	荻　島	作業場火災、全焼２棟、他１棟罹災
1984	昭和59年11月16日	新　方	住宅火災、５棟全焼、30名罹災
1985	昭和60年１月16日	越ヶ谷	住宅火災、１棟半焼、死者１名
1985	昭和60年３月19日	新　方	住宅火災、１棟半焼、死者１名
1985	昭和60年６月30日		台風６号　床上浸水573世帯、床下浸水1,702世帯
1985	昭和60年８月８日	大　沢	住宅火災、１棟全焼、１棟半焼、他５棟罹災
1986	昭和61年６月８日	北越谷	住宅火災、１棟全焼、１棟半焼、他４棟罹災
1986	昭和61年６月11日	越ヶ谷	空室から出火、１棟全焼、１棟半焼、他２棟罹災
1986	昭和61年12月26日	大　沢	倉庫火災、６棟が被害
1986	昭和61年12月30日	出　羽	住宅火災、１棟全焼、１棟半焼、他４棟罹災、死者１名
1987	昭和62年１月19日	桜　井	作業所火災、住宅２棟罹災
1987	昭和62年４月９日	大相模	チップ粉砕施設火災、鎮火まで72時間、古材チップ10,000㎥焼損
1987	昭和62年５月26日	出　羽	作業場火災、住宅２棟罹災
1987	昭和62年７月28日	出　羽	住宅火災、１棟全焼、３棟部分焼
1987	昭和62年７月29日	出　羽	倉庫火災、２棟全焼、住宅２棟半焼、１棟部分焼
1987	昭和62年10月28日	増　林	住宅プロパン爆発、１棟部分焼、１名重傷
1987	昭和62年11月９日	大　沢	倉庫火災、１棟全焼、住宅３棟部分焼
1987	昭和62年11月27日	大　袋	作業所火災、１棟全焼、住宅２棟部分焼
1987	昭和62年12月５日	越ヶ谷	住宅火災、１棟全焼、死者１名

西暦	年　　月	場　所	摘　　要
1988	昭和63年２月10日	大　袋	住宅火災、２棟全焼、２棟部分焼
1988	昭和63年２月17日	出　羽	住宅火災、１棟全焼、２棟部分焼、負傷者（全身熱傷１名）後日死亡
1988	昭和63年２月10日	大　袋	住宅火災、２棟全焼、２棟部分焼
1988	昭和63年２月17日	出　羽	住宅火災、１棟全焼、２棟部分焼、１名死亡（全身３度熱傷）
1988	昭和63年３月３日	大　袋	住宅火災、２棟全焼、２棟部分焼
1988	昭和63年４月21日	新　方	住宅火災、１棟全焼、２棟部分焼
1988	昭和63年８月３日	大相模	住宅火災、１棟全焼、２棟部分焼
1989	平成元年５月６日	大相模	古材7,500㎥焼失
1991	平成３年９月19日～21日		台風18号　床上浸水1,207戸、床下浸水4,052戸
1993	平成５年１月１日	大相模	倉庫火災、半焼１棟、部分焼１棟
1993	平成５年６月４日	出　羽	丸太5,000㎥焼失、住宅全焼３棟、部分焼１棟
1997	平成９年３月14日	荻　島	倉庫併用住宅火災、全焼３棟、部分焼２棟、他ぼや１棟罹災
1998	平成10年11月６日	新　方	住宅火災、全焼４棟、半焼１棟、部分焼３棟、他ぼや３棟罹災
1998	平成10年12月15日	荻　島	住宅火災、部分焼１棟、死者４名、負傷者１名
1999	平成11年12月２日	大　袋	住宅火災、全焼２棟、半焼１棟、部分焼１棟、死者１名
2000	平成12年７月８日	大　袋	工場火災 、全焼１棟 、鎮火まで約４時間消火作業
2001	平成13年３月20日	大　沢	作業所火災、全焼９棟、部分焼１棟　ぼや３棟
2001	平成13年６月12日	出　羽	作業所火災、全焼６棟、部分焼３棟
2001	平成13年11月７日	大　袋	長屋住宅火災、半焼１棟、死者４名、負傷者８名
2004	平成16年２月15日	出　羽	倉庫火災、古紙が焼損、鎮火まで約18時間消火作業
2006	平成18年１月16日	蒲　生	診療所併用住宅火災、全焼１棟、部分焼１棟、ぼや２棟、死者１名、消防職員４名負傷
2007	平成19年２月～４月	大　袋	ゴミ集積場連続放火、建物火災３件、その他の火災10件

越谷市の概要

越　谷　市　章

越谷市民憲章

わたくしたちは、越谷市民であることに誇りと責任を持ち、
水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、
限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1．教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくります。
1．きまりを守り、信じあい心豊かな明るいまちをつくります。
1．自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくります。
1．健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくります。

（平成21年４月１日現在）

位　　置	東経139度47分、北緯35度53分（市役所）	
面　　積	60.31㎢（東西8.6km、南北11.5km）	
人　　口	323,886人	（平成21年4月1日現在）
世 帯 数	133,212世帯	（平成21年4月1日現在）
人口密度	5,370人／㎢	（平成21年4月1日現在）

越谷市の木	けやき	（昭和53年11月3日制定）
越谷市の花	き　く	（昭和53年11月3日制定）
越谷市の鳥	シラコバト	（昭和63年11月3日制定）

■編集後記

昭和34年10月に職員13名、消防ポンプ自動車１台で発足した越谷市消防本部が50周年という節目の年を迎えるにあたり、記念になるものをとのことで本年度に「越谷市消防本部50周年記念誌作成委員会」を設置し、本誌を編纂することとしました。

編纂に際しては、「文言よりも写真等を多くし、目で見て分かる…」という趣旨で開始しましたが、発足当初からの諸先輩は既に退職し、越谷市消防の歴史を知る職員は少なくなっていることから、資料の収集に大変苦慮いたしました。改めまして資料や記録の重要性を認識したところです。

編集にあたっては、各委員が所有している過去の資料を持ち寄り編集したものであることから、不足等があるかとも存じますが、各委員の頑張りに免じてご容赦くださるようお願いいたします。

終わりに、この「越谷市消防本部50周年記念誌」が越谷市消防に対するご理解と今後の充実発展につながれば幸いに存じます。

越谷市消防本部50周年記念誌作成委員会
委員長　吉兼　宇一

■記念誌作成委員会

委員長	吉兼　宇一
副委員長	中村　　明
委　員	森田　秀男
	小林　隆士
	中村　恭久
	立原　孝之
	村田　和彦
	埜口　昭二
	川津　忠雄
	齋藤　紀明
	上原　利光
	堀越　達也
	桐澤　博俊
	須賀　昌彦

越谷市消防本部50周年記念誌

●発　行　日　平成21年10月
●企画・編集　越谷市消防本部50周年記念誌作成委員会
●発　　行　**越谷市消防本部**
〒343-0025
越谷市大沢二丁目10番15号
☎048（974）0101（代表）
●印　　刷　株式会社 ぎょうせい

※掲載した写真の複製・転載を禁じます。

発足 50 周年

since 1959

越谷市消防本部

SAITAMA KOSHIGAYA